

250年後



はじめに

私達は、今、肉体を持つています。肉体という形を持つています。しかし、私達の本質は意識。愛、愛のエネルギーなんです。

波動の世界がすべてでした。私達は形の世界を本物として、ずっと、ずっと、長い間、
気の遠くなるような長い間、^{てんしょう}転生^くを繰り返してきました。

すべて苦しい転生でした。間違った転生でした。真つ暗闇の転生でした。その中に真実は何もなかつたんです。真実は、心に届かなかつた。

このことに、誰もこの地球上に転生してきた人達、誰一人として、心で気付いた人はいなかつた。誰一人、真実を明らかにする人はいなかつた。

しかし、今、こうして、私達が肉体を持つていてこの三次元の中で、ようやく、ようやく、
田池留吉、アルバートという真実の波動の世界と出会い、三十年の学びの時間を経て、私
達は、真実の道、愛へ帰る道を、自分の心の中に見出し始めています。
だから、私達は呼び掛けます。宇宙に彷徨う^{さまよ}私達の仲間、この三次元にやつてこれなかつ

た私達の仲間に呼び掛けます。

もちろん、肉を持つてこの地球上に転生してきた意識達にも、呼び掛けています。とともに、ともに、帰ろうと。

愛、心のふるさと、私達のふるさとです。私達の心のふるさとは愛でした。愛は、私達の心のふるさとでした。懐かしい、懐かしい母の温もりの中へ、喜びの中へ、ただただ広がつていく中へ帰つてまいりましょう。

私達は、これから、二五〇年、三〇〇年かけて、この地球上に、そして宇宙に広がつている空間の中で、私達は、呼び掛けでまいります。

波動として、存在していることを、ただただ自分達の心の中で感じ合い、共鳴し合う喜びの道を、ともに歩いていきましょう。

(塩川香世)

「人生は喜びです。私は愛でした。」中からふつふつと湧いて出てきていますか。意識は喜び。ならば、肉もまた喜びです。生活は安定していますか。穏やかに生活をしていますか。喜びはパワーだと心に実感していますか。宇宙を思つて瞑想、愛を思つて瞑想、そして意識の流れに思いを馳せる。^はそうして、日々を過ごしていくば、10年、20年、30年なんてあつという間です。そして250年も。もし出会いがあつたならば、思い出してください。250年前、確かにともに学んだことを。

私達は思い出します。だから、来世は非常に楽しみです。超敏感な肉のもとで、超スピードで仕上げていきます。

(UTAの輪の中でともに学ぼう²⁹³ より)

要は愛へ帰る道をしつかりと自分の中に見つければいいんです。その道が自分の中に見えたならば、その道を真^ま_すっ直^すぐに突き進んでいきましょう。そのためには今の肉があり、今の生活があり、今の環境があり、周りが整っているんです。そういうことがはつきりと感

じられます。そして、250年後に思いを馳せるとき、意識の流れに思いを馳せるとき、何とも言えない喜びが心に広がっていきます。

「ああ、私はこのために存在してきたんだ。この時を迎えるために、今までの苦しみ、間違い、すべてがあつたんだ。すべてを喜びに変えられる自分があつたんだ。」そういうふうに自分の中に自然と伝わってきます。

愛へ帰る道を自分の中に見つけるために、どれだけ学びを進めてきたでしようか。学びはそのためにあります。愛へ帰る道を自分の中に見つける、そのことに専念してください。愛へ帰る道を見つけたならば、その道を真っ直ぐに、ただただひたすら真っ直ぐに突き進んでいく喜びを心に広げていくこと、それが私達の人生でした。私達は、そうです。そのために人生がありました。何億年と転生を繰り返してきたけれど、愛へ帰る道を見つけるための人生、転生でした。そう心で本当に分かつたならば、「たつたひとつ真実、やつと、やつと出会つた」ということが、本当にあなたの心に染み渡つていくでしょう。

（UTAの輪の中でともに学ぼう²⁹⁴ より）



ともに、ともに行こう。ともに、ともに、みんな、みんないつしょにひとつになつて行こう。そんな思いが田池留吉の世界から伝わってきます。

どうでしようか。皆さん。それぞれの環境、それぞれの思い、それぞれの考えがあります。どうでしようか。今の肉、肉の思いを少しづつでも弱めて、ただ一点、心を合わせていてください。田池留吉が伝えてくれたこと、田池留吉の世界、愛の世界、自分の中の愛に素直に、本当に真摯に向き合つていきましょう。

田池留吉から伝えられたことを、素直にしつかりと実践していく今世の残りの時間としていきましょう。

今の肉を持つてこの学びに集えたことを、心から喜んでいつてください。心から喜び、そして250年後にどうぞ繋いでいつてください。その間に一回、あるいは二回、それ以上の転生を重ねていくでしよう。しかし、その中で苦しい、悲しい、辛い、怒り、色々な闇の思いをどうぞ、どうぞ、田池留吉のもとに帰してくださいよお願いします。

難しいです。難しいですけれど、そうするより他に方法はありません。私達が次元を超えていくためには、肉を離すその瞬間まで、そして、本当は肉を持たないその間、しっかりと田池留吉、お母さんのほうに心を向けて、ただただ喜びと温もりの中にあつた自分に、

心を^は馳せることをしていかなければなりません。難しい作業を、私達は自分に課しています。しかし、それは喜びだからです。本来の自分に帰るために、喜びの道を歩いてまいりましょう。

ともに、ともにひとつ。ともに、ともに行こう。その呼び掛けを田池留吉がしてくれました。だから、もちろん、私も、ともにともに行こうと、ともにひとつと呼び掛けてまいります。ともに、ともにひとつになつて、愛へ、愛へ。宇宙をどんどんどんどん進んでいきましょう。宇宙は私達の帰るふるさと。あのふるさとへ、心をひとつにして帰つてまいりましょう。

(UTAの輪の中でともに学ぼう³⁶²より)

ンゼルス、アラバマ等にお住いの方々、日本からも多くの方々が集い、毎日家の一階の広間でセミナーが開かれました。

それは、それは忙しい毎日でした。その後、セミナーはニュージャージーのホテルや、マンハッタンのミッドタウンのホテル、ハーレムのシルビアレストラン、ソーホーの富田さんのホテル等で開かれました。日本から学びの友が大勢参加されたのも懐かしく思い出しています。

その間、澤田さんや、ニュージャージーの家に住んでくれたマリちゃん、ヨシさん、シゲちゃん、ケンジ、その他の当時二十代の若者の協力でセミナーも日常も無事に過ごせたことがありがたく、楽しさとともにうれしい思い出になりました。このように思い出す機会を頂きまして本当にありがとうございました。そして、今は、来世ニュージャージーに転生できるこ



お世話になったシルビアレストランのシルビア・ウッズさん(2012年逝去)



久保明子



ワシントンブリッジを渡ればNYのハーレム。なった私は、白浜のセミナーで田池先生からニュージャージーのセミナーのお話を頂き、又、ニューヨークに行けるとばかりに引き受けました。

今度は遊びじゃない。行って何をするか、一週間の滞在の計画を考えました。以前、旅行で出会った人に会おうと思って、澤田敏夫さんに会い、そしてマンハッタンのツアーコンダクターの富田さんに会うことにしました。この出会いでセミナーは澤田さんに最初から最後までお世話になりました。日本から来る学びの友が次々と来られ、観光で富田さんの案内でハーレムに行きました。当時、「ハーレムに行く」などと言うと、とても信じてもらえない時代でしたが、皆さんに大変お世話頂いたと振り返っています。

そして田池先生から仰せつかったニュージャージーでの学びの場として、小さな家が見つかりました。森の中の家の前を流れるハドソン川を眺めながら、ワシントンブリッジ、前方にニューヨークのマンハッタン、ここで学ぶ機会があるんだと、私は、うれしさいっぱい日本に戻り田池先生に報告しました。その後、田池先生・陽子さんが来てくださいり、お隣の板倉さんの家に泊まりながらニューヨークに住んでいる方やシカゴ、ロサンゼルス

私の十代の頃、我が家の前にアメリカ人が住んでいました。その影響もあって子供の時からアメリカに行きたいという思いもついて、やっと実現したニューヨーク行き。その時は、ほとんど知らない人たちとツアーデ、マンハッタンを見学、ミッドタウン、カーネギーホール、ミュージアム、ハーレム、ソーホー、チャイナタウンと見るもの聞くもの、すべてが楽しいだけでした。

その後、セミナーに参加するようになつた私は、白浜のセミナーで田池先生からニュージャージーのセミナーのお話を頂き、又、ニューヨークに行けるとばかりに引き受けました。



ハドソン川を行く消防艇、対岸はニューヨーク（ワシントンブリッジから撮影）。

一五〇年後についでお送りください。

(二〇一九年10月)

葉沖にあります。両者とも東京という大都市のすぐ近くです。大都市近辺に二つのプレート三重合点、こんな場所は世界でも存在しないと思います。

さて NY、NJ はどうでしょうか？調べてみると日本にも来ている北アメリカプレートのかなり内側に位置しています。一番近いプレートの境目が大西洋の真ん中で約 3,000km、反対側はアメリカ西海岸沿いで約 4,000km で、国内に境目がある日本とは比較にならないほど火山や大地震の影響を受けづらいことが分かります。しかも NY のマンハッタンの地盤は、かつて地球に一つの大陸しかなかった時代に造られたものであると考えられ、強固でしかも地面に近いため、彼の高層ビル達を支える大きな役割を果たしていると言われています。肉で考えても NY、NJ が 250 年間存在し続ける可能性は高いなと思います。マンハッタンにロックフェラー・センターというのがあるのですが、それがそっくりそのまま 250 年後にも残っているかも知れません。実は数年前にここの前を通ったのですが、今でも何か妙に印象に残っています。もしかしたら 250 年後、ここで皆さんとまたお会いできるかも知れませんね。

ところで蛇足ながら私が現在住んでいるアメリカ西海岸はどうなるか考えてみました。西海岸沿いに北アメリカと太平洋プレートの境目が存在しています。条件としては日本とほとんど変わらない、まあ少しマシかなというぐらいでしょうか？ オレゴン沿岸にはもう一つ小さなプレートがあつて、北アメリカ、太平洋プレートに挟まれています。そこで最近頻繁に地震が発生しているようです。まあ肉で考えてもよく分からぬのですが、250 年後にそっくりそのまま存在している確率は高くないと思います。



太古からの岩盤の上に出来た都市

西田博史

かつて地震関係の仕事をしていたので、日本そして現在住んでいるアメリカ西海岸のオレゴンの地殻ちかくについてはある程度の知識はあったのですが、アメリカ東海岸、特に NY、NJ の方についてはほとんど知識がありませんでした。それを以前に桐生さんに指摘されて調べてみたことがあるのですが、なんと NY、NJ はプレートのかなり内側にあって、日本とは比べ物くらべものにならないほど大きな地震や火山の影響を受けにくいうことが分かり、驚いたことがあります。田池先生がこれをご存知だったかどうかは分かりませんが、四つのプレートがひしめき合う日本と、プレートの真ん中でのほほんと安泰な NY、NJ、これから天変地異が増えてくるという 250 年間に大きな差が開くのは明白だなど肉でも思いました。そういうや地震とか火山とかの話を全く聞かないから、全然仕事上で絡みがなかったんだなど妙に納得しました。

かつて地球には一つの大陸しか存在しなかったと言われています。それが分裂して今のような状態になったのですが、その時に各大陸を移動させた船のような役割を果たしたものがプレートと言われています。ゆっくりと長い時間がかかった今もなおプレートは動いており、ある場所では衝突して火山を造ったり、2011 年の東北大地震のような大きな地震を引き起こしたりしています。

さて日本はプレートのどういう場所に存在するのでしょうか？ 近年の大地震のためにご存知の方も多いとは思われますが、日本とその周辺では四つのプレートがひしめき合っています。大まかに言って地球上には十数個しかないプレートのうち四つものプレートが日本とその近海でぶつかっているのですから、まあこれまでよく沈まないで存在してきたなと思います。しかもユーラシア、北アメリカ、フィリピン海プレートの三つがぶつかっている場所が富士山近辺にあります（確か甲府辺りだったと思います）。こんな所は地球上でもかなり稀まれとしか言いようがありません。しかももう一箇所、三つのプレート（太平洋、北アメリカ、フィリピン海プレート）が重なっている場所が千

1

「しっかりとバトンをつないで下さい」と、
250年後の私が言います。

田池留吉に向けて、死後の自分に向けて、肉

を離した後の自分に向けて、瞑想した時に、あ

れこれごちゃごちゃと次の転生てんしゅうでも肉の思いに、

振り回されずに唯一筋に田池留吉に向けていか

なければと思いました。“唯一筋に”これだけな

んだと。嬉しかったです。

終わつてからUTAブックさんがパソコンに
載せてくるてるのを聞きながら意識の流れつて、
本当に流れているんだなあと流れを感じさせて
いただいてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

3

はい、私は250年後、アメリカニュージャー
ジーに喜び喜び喜び、ただ喜びだけで存在する
意識の集合体です。

4

いまだ見たことがない光景が浮かぶ

2

それは紅葉の季節

川沿いの落ち葉が敷き詰められた

落ち葉を踏みしめて歩くそんな一角に

何かに引き寄せられるようにたどり着いた。

そんな思いが私を支えてくれています。

まるでそれは夢の中なか現なのか

なにも確信はない

250年後と思うと必ず浮かぶこの風景

6

この日を待っていました。この日を待っていました。

今の肉の自分には全くわかりません。

でも250年後という言葉を聞くと心が震えます。

5

そしてこの日だけを待っていた、待っている。

そういう思いが溢あふれます。

肉の自分は頭で考えてしまします。

だから全くわかりません。

一人ぼっちの私。なにかなにか探している思いがあります。

ずっととずっと探していたのです。私がさがしているのは、アルバート。

まるでいる私がいます。さみしくてたまらない

い心。

一人ぼっちの私。なにかなにか探している思

いがあります。

でもこの心から震えてくるような思いを信じ

ていきます。

7 愛です。一つです。



NJ エッジウォーター、ハドソン川のウォーターフロント

一番覚えているのは、昨年か、その前の年だつたか、アメリカ在住の方たちのスカイプの時でした。

最後のほうで、塩川さんが、アメリカの地名を数か所おつしやつた時でした。

「エツジウオーター」に反応して、喜びが噴出しました。覚えているというか、知つていると

いうか、とにかく理屈抜きにうれしくて、自宅で一人瞑想していたんですが、飛び上がりました。

もう一つは、今年に入つてから何度目かのライブ配信が、ちょうど地域のお勉強会の日時と合つて、大宝ホールで、学びの友とみんなでの瞑想の時でした。田池留吉に向ける瞑想から、死後の自分に向けての瞑想も終わり、その後「250

年後の自分に向けて」の時、とても言い知れない苦しみの中だつたのに、「肉をくれー、肉を！」もう、必死の思いで訴えている感じでした。どんなに苦しい環境でも肉が必要なんだ、本当に肉の自分は、ぼけて、普段は普通に当たり前に生活しているけれど、中はこんなに懇願しているんだ、生まれてこれるかどうかが、自分の中の意識にとつて、どれほどのことなのか、本当に千載一遇のチャンスを手にできるかどうか、その必死さが、瞑想で感じられました。

また肉にすぐ戻つて、時間を無駄に過ごしてしまうけれど、このことは忘れられない体験です。「生まれてこれること、このことだけが愛でした。」瞑想でそうなんだと、馬鹿な自分も一瞬ですが思いました。瞑想ができる環境がありたいです。

こうしてまたそのことを思い出して改めて、自分に言い聞かせていきます。

ブックさん、色々な企画を本当にありがとうございます。

9

250年後に向けた時に出てきた思いです。

私は250年後に肉を持つあなたの意識です。

今あなたが無数のあなたを抱えて肉を持つて
いるように、私も無数のあなたを抱えて、アル

バート、核のもとでともに学んでまいります。

今までの転生は、250年後、地球上での最
終地に肉を持ち、最終の学びをするための準備
期間だつたとも言えます。

地球上での最終地で最終の学びを喜び、喜び
で行つてまいりましょう。あなたの方の到来を喜
び、喜びで待つております。

感想

死後の自分に思いを向ければ、たくさんの自
分と対話ができ、次の転生に向けても対話がで
きます。

こういうことができるのも、真実の意識、田
池留吉の意識に出会い、ともに真実を学ばせて
いただいたからこそのことです。真実を知らな
いまま肉を終えることは、永遠に地獄の奥の奥
のそのまた奥底で身動きもできない固まつた状
態だと知りました。

田池留吉の意識と出会つた今世ほど、喜び幸
せな人生はありません。出会いを心からありが
とうです。

今回の企画にも感謝の思いでいっぱいです。

ありがとうございます。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

今世、どれだけの思いで肉体を頂いたか。肉を通し、底の底の奥底で狂い、真っ暗な中で、起き苦しんでいる意識の自分を確認できました。でも、今世田池留吉の波動に出会い、間違つてきたと私のすべての意識が叫びをあげています。

250年後に向けて瞑想できる喜びが底の底の奥底から吹き上がつてきます。

瞑想で、250年後に向けたとき、「250年後に出会いたくて、おかあさんに産んでもらいました」そのような思いがでました。

250年後

アルバートの目との出会い。

瞬間、田池留吉を思い出します。

日本の国で田池留吉とともに学んでいたことを思い出します。

アルバート、アルバート、アルバートと叫ん

びながら、田池留吉を思い出します。

「アルバート！」

「私は愛です。私は愛です。私は愛です」と。

「私は愛です。私は愛です。私は愛です」と。
懐かしい、懐かしい故郷、日本を思い出します。友が沢山います、仲間の顔がたくさんあります。

ニューヨーク、セントラルパークで満身創痍まんしんそうい

の私は叫ぶ。

「アルバート！」

「私は愛です。私は愛です。私は愛です」と。

「私は愛です。私は愛です。私は愛です」と。

出会えた喜びにわきかえります。

ともに、ともにアルバートと出会えた喜び。

田池留吉を思い出した喜びが心に広がつてきます。

ありがとうございます。

14

「田池留吉を思う」……なんにもない、なんにもないと、思いました。

「死後の自分を思う」……うなだれて、小さくなつて行く自分を感じました。

「もう一度、田池留吉を思う」……

どんどんそちらのほうへ、吸収されて、近づいていく自分を感じました。

しばらく、その様な感覚が続きました。

そして、なにか、大きい所へ、到達しました。

具体的にそのような感覚でした。

これが、私の、「250年後の瞑想」です。

1764のメッセージを読み、目の奥と胸の奥が、暖かくなつて、詰まつていたものが、スー^とつと溶けてなくなりました。

最近思つてることとは、

ポカポカとして、中からじんわりと、暖かく、気持ちが良い。

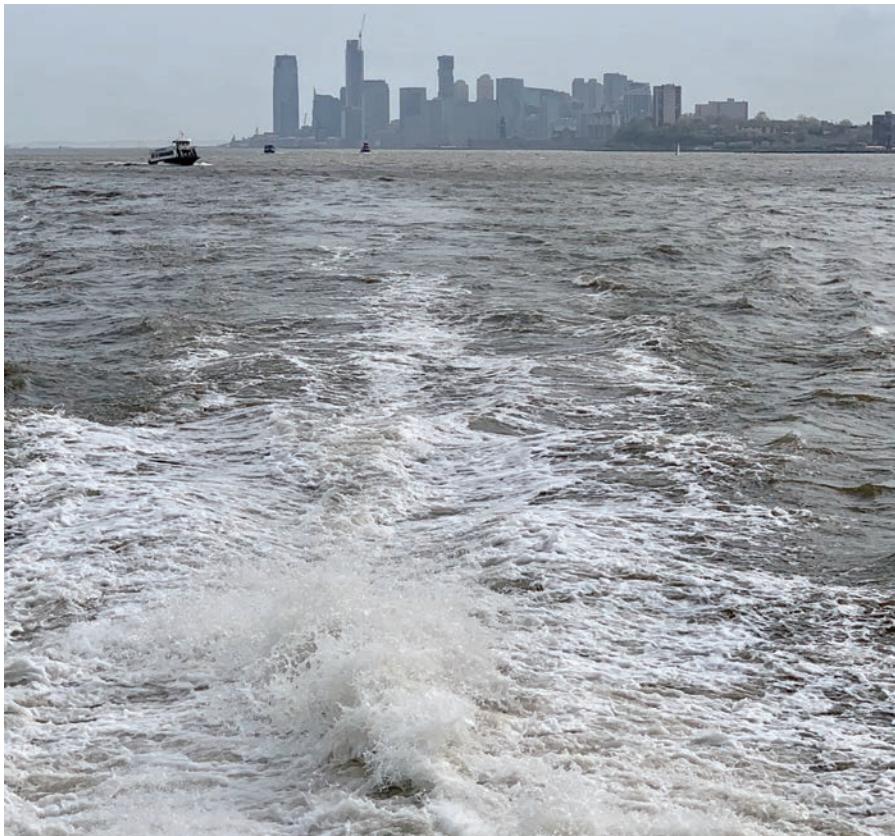
そして、しつかりとしている。

気分が良い。

本当の友達。

支配もなんにも無い。とても気持ちが良い。

そんな思いがします。



NY から NJ エッジウォーターへ船で……

250年後は、私の心にありました。私はいつでもこの自分と出会っていくことが出来る。私は250年後の私とともにあります。

心を向けていくことが喜びです。自分を呼ぶことが喜びです。

お母さん、ありがとうございます。私は肉をくださつてありがとうございます。

喜びで喜びで自分に心を向けてまいります。

今、この瞬間を私はわたしに問います。

これからも250年後のわたしに問います。

肉で生きてきた私でした。

私がわたしに問うのです。

そのための肉、今世でした。

私が田池留吉、アルバートに問います。

肉で生きてきた私は間違つてきました。

肉を本物する思いが間違つてきました。

肉の思いを供養するための今世でした。

今世の肉がある限り、死んでからも、250年後につなぐため……、私はわたしに問います。

た。

うれしい、うれしい瞑想の時間を設定して下さったUTAブックの皆さん、本当にありがとうございました。いつもご苦労様です。

昨日初めて「死ぬまで瞑想会」に参加させていただきました。とても良かつたです。

セミナー会場や地域の勉強会で感じた喜びとちょっと違つた、ふわっと優しい安心感と喜びに包まれました。長い間学ばてきて、肉的「死」も近い方々の優しい波動なのでしょうか。

「ともに帰りましょう」に素直に「はい」と言えました。初めて「死後の世界」もふわっと温かいものを感じました。田池留吉を感じました。まだまだほんのはしりかもしれません、この思いを信じていきます。そして250年後を思う瞑想の時も同じような温かいものを感じました。

ありがとうございますお母さん。私を産んでくださつてありがとうございます。私は帰ります、あなたとともに帰ります。

長い長い間待ち続けてきました。ようやくその思いが叶えられること、とつてもしあわせです。

ようやくですねお母さん。

ああ、アルバートが待つてくれています。会いたかったアルバート、帰つておいでと待つてくれています。

嬉しい、ありがとうございます。必ず必ず帰つてまいります。

私の250年後に向けて出る思いは絶対、絶対喜びのエネルギーに目覚める、うれしくて、うれしくて心の中に喜びが溢れる自分がいる。という思いです。でももう一人の自分が本当かな?「もつとしつかり心を見てね」と言つてているのも感じます。私の中に250年に向かつている私と、それを後押しする私がいるようです。絶対、絶対の思いを実現するために今ある肉の人生すべてを使つて心を見ていこうの思いが上がつてきます。

言葉にするとありきたりですが、ただただ嬉しいです。みんな一つでした。250年後を思うとまさにふるさとの歌そのものでした。肉

ある限りふるさとの歌を口ずさみ、この思いを
250年後に繋げていきたいです。このような
機会をありがとうございました。

21

250年後、アルバート、次元移行。

アマテラス、アマテラス……250年後、今
世ともに学んだことを思いだすでしよう。

心が叫ぶアルバート、アルバート。アマテラ
スとともに次元を超えてまいります。

うれしいです。ありがとうございます。

転生のたびに出会うであろう天変地異……肉
はボロボロ心は疲弊^{ひへい}しているその中で、母の温

22

250年後に向けて出てくる思いです。

帰りたい、帰ろう、帰るんだ！ 切望して田池
留吉^{りゅうきち}、アルバートと泣き叫ぶ思いとともに、く

そつ、くそつ、苦しい苦しい、何が愛だ。ど
こが愛なんだ、怖い怖い、何もかも苦しい、こ
の天変地異が怖くないやつがいるなら出てこい！
この閉塞^{へいそく}されたこの心をどこに向けたらいいん
だ、苦しいー苦しいー、でも帰りたい…同じ思い
が上がつてくる、お母さんーお母さんー……ひた
すらに呼ぶ思いか、助けてくれの思いか……。

私の心はまだまだ250年後を喜びで迎える
思いになつてません。

もりだけがすべての鍵、それまだしつかりとが確立できていなかからです。

23

あー、お母さん、私たちは再びタイケトメキチと共に学ぶ時間をいただきました。ありがとうございます。うございます。うれしいです。お母さんありがとうございます。

24

田池先生との出会いは、真なるものを求める人生そのものと、日々の瞑想を、UTAブックの再読を通して実感する。

“どもに瞑想を”のライブ配信を聞かせてもら

25

単純に250年後と思えば、アルバートを呼んでいるたくさんの私に出会います。

今世以上の強い思いで、お母さんに肉を、私を産んでくださいと願います。

帰つていきたいのです。私は、あの宇宙へ、忘れてしまった宇宙へ、母なる宇宙へ帰ります。伝わってくる思いはアルバートです。

心をただただその思いに向け合わせていくことが、今肉を持つてしていくことです。

25

自分の思いの世界を知れば知るほど死後固まつていくしかない現実を知り始めています。

肉が自分だとする世界は戦いのみでした。固まつていく中で、「今度こそ。今度こそ」と空しさ苦しさ冷たさの中で自分を奮い立たせます。

「温もりの中へ帰りたい」チャンスをください。
お母さんが、あの今世のお母さんが願を叶え
てくれます。

田池留吉が肉を持つ今世に肉をくれたあの母

です。

お母さんありがとう！ アルバートと叫べる

250年後……。

うれしいです。

目を閉じて250年後を思うと、胸の辺りに大きなエネルギーを感じます。

マグマが吹き出るのを今か今かと待つているような、そんな感じ。それが喜びなのか苦しみなのかは、まだ分かりません。

私はニューヨークでこの学びに出会いました。順風満帆だった日本での生活を捨てて、ニューヨークに渡りました。今思えば田池留吉に会いに、単身乗り込んでいったのです。
それと同様に私はアルバートに会いにいきます。

そんな自分を感じるとき、ただただその自分が愛しくてたまりません。肉では何も分からなくとも、中はみんな知っていることを感じます。



NY トランプタワー（上）／9・11 のモニュメント・消防夫の像（下）



250年後と思つた途端とたん、苦しい思いと恐怖心が出てきました。

これから真剣に、ホントに真剣にやつていかないと、とても250年後にはつないでいけないと思いました。

これから、ホントに真剣にやつていきます。

250年後、それは喜びです。

懐かしくて、懐かしくてただただ会いたかつたと叫びます。

嬉しくて嬉しくて、涙が溢れて、幸せです。
アルバートに会いたかつた、その一言です。

パートナーと広がる感じがして、手を上にあげて異語を語っています。

お母さーーん、お母さーーんと呼んでいます。うれしいです。

31

250年後の出会いまで、落ちて落ちてトコトコ落ちて、もがき苦しみ、人生を呪い恨み、どんどん底に落ちた状態で、アルバートと出会います。その瞬間、喜びが爆発します。それはもう言

葉になりません。

出てくるこの思いは、まだ断片的です。まだ
まだ自己供養を進めていかなければならぬと

感じます。

れだけのチャンスであるのか。まさに千載一遇せんざいいちぐうのチャンスでした。

32

250年後は今。今に全てが集約されている。本当にそうでした。

今世を逃して、250年後はないと思いが上がります。

今世のこれからのお勉強にかかっています。余りにも今までの自分の学びがほんくら過ぎました。今まででは250年後はないと自分が自分に伝えます。

かすかにですが、宇宙が待っている。約束を思

い出し、次元移行を果たしてくださいと宇宙の友が切実に伝えてきているのを感じ始めます。

どれだけ肉に埋没し、自分を裏切ってきたか。それでもこうして待ってくれている。今世がど

ぼんくらなどうしようもない肉の自分に、肉体細胞を始め、様々な現象を頂き、漸く目が覚めました。これでもかこれでもかと、沢山の愛を頂いてきました。遅すぎました。肉体細胞は愛でした。これだけ沢山の現象を頂かなかつたら未だに目が覚めない、どうしようもない自分でした。

これから真剣に、本気になつて、この道、眞実の道、意識の流れ、田池留吉、アルバート、母なる宇宙に帰る道を歩いていきます。250年後へと真まつ直すぐにのびる、この道一本道を歩いていきます。そして必ず、250年後に繋つないでいきます。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙、お母さん、待つていてください。

今世を、今世の肉を本当に、ありがとうございます。



NJ プリンストン・公共図書館



うれしいです。うれしいです。うれしいです。
お母さんありがとうございます。お母さんありがとうございます。お母さんありがとうございます。うれしいです。お母さんありがとうございます。

今まで、250年後を思うことさえ嫌つて
いました。
嫌だ、もう生まれたくない。
今世が何事もなく終わればそれだけでいい、
みたいに思つていました。

本日（10月5日）、250年後を思う瞑想をし
たら、250年後は遠くにあるものではなく今
の一点、と思えて嬉しかったです。

アルバート、アルバート、アルバート
私たちの故郷を目指し
思いはみんなアルバート
みんなみんなひとつ
あの宇宙へ帰る!!

間違い続けてきた真っ黒な私たち宇宙が

あの宇宙を目がけて

喜びで爆発!!!

ああ、お母さん、ありがとうございます……
ありがとうございます……

タイケトメキチ、アルバート……

ひとつ

「肉を持たなくてもよかつた田池留吉の意識が、今世肉を持ちました。」

アルバートと叫んでいました。
アマテラスとともに、ともにお母さんを呼び
続けていました。

この一文を思い出す時、私は母に「なんでこ
んな時期に産むんだ、お母さん、今世私はどん
なに苦しい思いをしてここに生きているか分か
るか。」って、反発の思いが出てきます。

田池留吉と時を同じくしたから、洗いざらい
の思いが噴き上がりつてくる、悔しいけど願い出
たからこそ私というものの本質が見えてくる。

嬉しい中にこそ次元移行があることを知りま
した。

250年度に思いを向ける、「ずっとずっと待
ち続けてきました。そして、これからも待ち続
けます。」私の心はそう語ってきます。

まだまだ真実の私には今の私は届かないけれ
ど、それでも待つて待つて待ち続けてくれる私
があることを嬉しく思います。

250年度の自分を思う時素直に、「肉体をく
ださい、お願いします。」母に願う私があります。
そして、「肉体をいただいたからこそ、今こうし
てアルバートと出会うことが出来ている、なん
となんと幸せな事か、本当の喜びとはこのこと

ですよ。」と伝えてもらつてている。

幸せが喜びが爆発する、その瞬間を思えばどんなにどんなに幸せかを思える。今世のそれよりももつともとの喜びがあることが響いてくる。この喜びの中でこそ次元移行が迎えられるんだと知ります。嬉しい嬉しい瞬間です。

38

250年後、待つてています。心待ちにしています。

アルバート。アルバートです。

アルバートと呼んでください。アルバート、アルバート。私達は喜びです。

お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。私は母なる宇宙のもとへ帰つてまいります。

出会いをありがとうございます。たくさんの出会いをありがとうございます。本当に肉体を置いていくときがやつてまいります。私達は、喜びのエネルギーだからです。地球ありがとうございます。長い長い時間、私達を受け入れてくれてありがとうございます。

私達はともに次元を超えていく意識です。喜びの再会を果たしてまいりましょう。

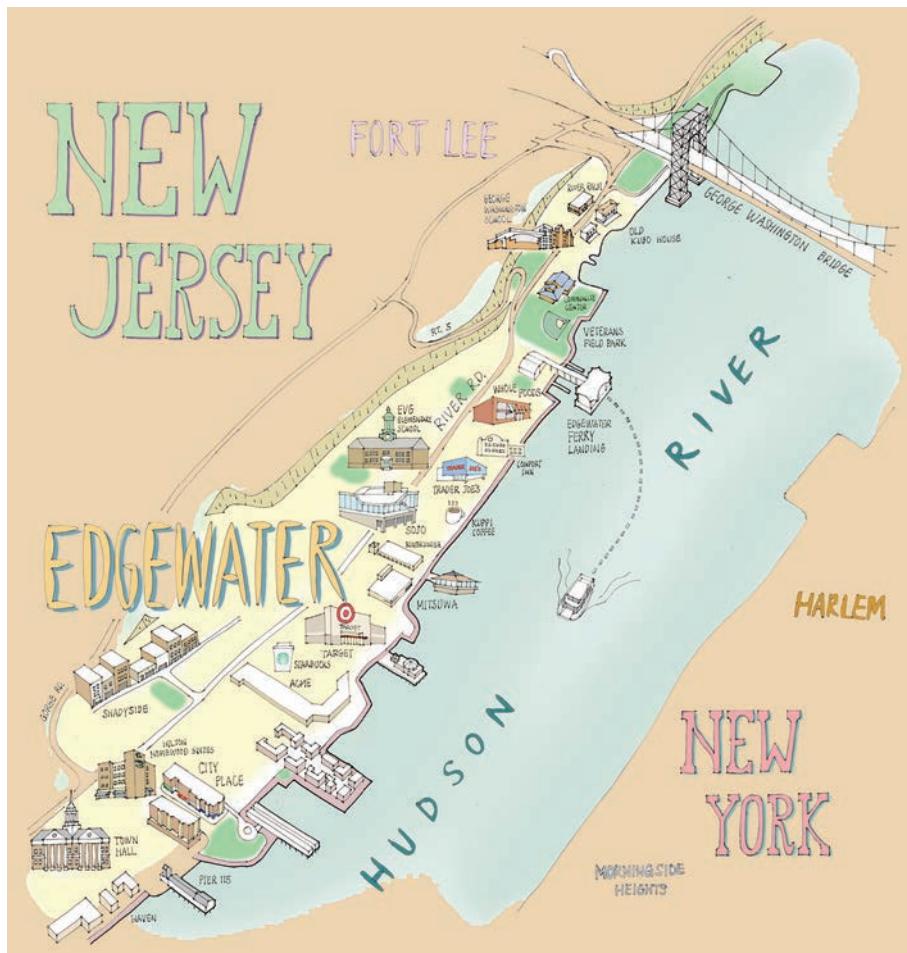


ジョージ・ワシントンブリッジ (NJ 側から)

33

その隣にはブルックリン風のピザ屋さんが昔からあり、東海岸ならではの、美味しいピザを気軽に食べることができます。

その並びには韓国チゲ鍋、中華料理、ベトナム料理やお寿司屋さん、そしてその先にはベーグル屋さん、少し歩くとトルコ料理、ギリシャ料理、キューバ料理もあります。沢山の人種がこの小さな街にギュッと集まり、それぞれのカルチャー（文化）を学び合いながら暮らしています。



鈴木マヤ（文）鈴木健治（絵）



ハドソン川に沿って南北に長い、ニュージャージー州郊外の小さな街エッジウォーター。

約 30 年前に夫が住み始めた当時は、日系スーパーのヤオハン（現在のミツワ）以外に特に目立った商業施設もなく、古い住宅と壊れかけた工場しかありませんでしたが、今ではオシャレなレストランやカフェ、人気ショッピング街、

メジャーなスーパーマーケットなどが沢山出来ました。

次から次へと立っていく高級マンションには、ファミリー層やビジネスマン、芸能人などがマンハッタンから多く移り住んできています。

目の前でどんどん変化していくこの街の中で、私たち家族の長年のお気に入りの場所といえば、ハドソン川沿いにずっと続く遊歩道。

暖かい季節には、犬の散歩や自転車を走らせる子供達、カップルや忙しい街並みから息抜きをしにやってくる人たちで溢れます。

私たちも、愛犬を連れてのんびりとニューヨークの景色を眺めながら歩き、疲れてきた頃に散歩コースに並ぶお店で休憩をします。

昔はよくアイスクリーム屋さんに行ったり、ミツワのフードコートでランチを食べたりしましたが、私の最近のお気に入りは、数年前にできたカフェ『kuppi』です。広くてモダンなインテリアの店内で、美味しいコーヒーと、ニューヨークで有名なベーカリー『Barthazar』のパンやお菓子をニュージャージーでいただくことができます。ガラス張りの壁からは、ハドソン川の向こうのハーレムが目の前に見え、いつまでも座っていたくなるようなこの空間がとても好きです。

タイケトメキチを思えばアルバートと呼んでいます。

以前から、今世、タイケトメキチに必ず出会うために生まれてきたという思いが上がつてくるのですが、肉の思いの強い私はなかなかピンとこず、最近、ようやく少しずつ思えるようになりました。苦しい過去世の実感が強く、生まれてくることへの恐怖が強く、250年後に思いを向けることが恐怖なので、敏感な方だと思うし、素直に、素直にと思うのですが、250年後と思うと閉じてしまう感じでした。

今回、向けてみて、「お母さん、肉を持たせてくれてありがとう。」という思いが上がつてきて本当の私は喜んでいる、それを信じてくださいと伝わってきました。

学びに出会う前は勿論もちろん、出会つてからも長い間、肉で頑張る、肉を整える、に力を注いできた愚かな私でした。

そんな私でも、「愛へ帰る道」に向かつて真まっ直すぐに歩いていこう、そのために母に産んでもらったのだと、やつとやつとわかつてきました。嬉しいです。

次の転生てんしょう、また次の転生、そして250年後の転生には、必ず繋つなげていこう、そのためには今世の残された肉の時間を、正しい瞑想をして学んでいきます。

たくさんのかさん、苦しい自分は肉だという過去の自分を供養していかないと250年後に向き合えないのだと思いました。

から教えて貰っています。

タイケトメキチ、アルバートに会えう。

そこだけに焦点しょうてんを合わせて生きたいです。

250年後に向ける。

ただ、ただ嬉しい。

お会いできます。

タイケトメキチ、アルバートに会えます。

肉の私は馬鹿なので、次元移行を頭で考えて

も分からぬ。

でも、共に次元移行する事実に心向けるとただ嬉しいです。

持ち物は愛だけです。

他には何も無いし要らぬ。

沢山の思いや荷物を抱え込んでいる自分に伝えたい。

ホントは何も要らないこと。

空を飛ぶ鳥がどんなに自由か！

軽く軽く、翼を羽ばたかせて空高く飛ぶ鳥達

本当の自分と出会える幸せを心で感じて参ります。

あなたは、愛です。
あなたは、愛です。
あなたは、愛です。
あなたは、愛です。

何度もお伝えします。

あなたは愛です。

それだけを信じて下さい。

肉では無いあなた、それがどんなに大きな存在であるかを心で感じて下さい。

私は田池留吉です。

250年後に向けた時に出てくる思いについて、直近の死ぬまで瞑想会の音声を聞いて2度、その後で少し長めに時間を取つて瞑想しました。

最初に向けたときはふわっとした感じで瞑想を終えました。2回、3回と続けると、次第に250年後の自分がはつきりと力強く感じられるようになりました。の中に既に250年後の私が確かに存在していることが波動として伝わってきました。私はここにいる、と。

瞑想中、肉ですが、250年後、アルバートに出会えると良いな、今世、田池先生の元で皆と学んだことを思い出せると良いなと思いながら瞑想を続けました。ふと、アルバートが言葉ではなく異語で語りかけてくれているような感

じがしました。頭を介さない異語を通じてどんどん波動がダイレクトに伝わつてくるような。瞑想を通して、250年後の私がしつかり私の中にいる、実体はないけれど、エネルギーとして確実に存在していることが確認できました。

今まで積極的に250年後の自分に向けてみたことはありませんでしたが、今回確認できて良かったです。

今後は250年後の自分、250年後に至るまでの自分とともに学びを進めます。

このような機会をいただいてありがとうございました。

ない。ただ共に帰ろうの呼びかけに必ず何千億もの私達は呼応していく。

その喜びが伝わってきます。

始めは「嫌だ！ 向けたくない」と自分から蓋ふた

を閉めていました。

怖い、怖い、怖い……。

そしてもう、全く取り繕つくろつていけない私がいました。

まさしく肉が本物、という私が歴然でした。

それが、何回も「死後に向けて」の瞑想の機会がある度に、怖い、から、苦しい、苦しくて

たまらない、に変わり、私なりにいつの間にか

250年後の私に繋つながつていったと思ひます。

「腰が痛い。痛くてたまりません。人が信じら

れません。私は一人ぼっちです。どうしてこんな酷い目に遭うの。……ああ、宇宙人？ いや違う。優しくて温かくて、何だ。何だ。何だ。形が見えない。ああ、お母さん、アルバート、アルバート、アルバート……」(異語) 嬉しいなあ。何だか訳もわからず、嬉しいなあ。

私はこの数年、よく転び、よく骨折し、ちよつとよくなつたと思つたらまた転んでしまい、セミナー参加から離れてしまう日々を過ごしています。

セミナーに行きたい！ は全くの欲だと思い知り、行けなくても日々の中で自分を見ていく環境の中が、如何に凄いことなんだ、とようやくようやく、少しずつ分かつてきました。

とにかく、築60年の部屋が汚い、掃除大好きな私のにはこのようなすつかり動かない身体にならないと諦めさせませんでした。

2足のワラジ、から離れるのはこういう身体にならないとダメだということでした。

我が家のお娘も愛犬も、汚いお家でも全く平気で受け入れています。

やがて、セミナー参加も、いつか行ける日が来るとお任せになるううと思えるようになりました。

ホームページに綴られていたように、最低限の肉の決まりが守れない現実の姿を先ず認め、自宅でもやれる環境に、心から「ありがとう」と自分の肉に伝えていく心がけにいこう、そう思います。

こういう機会を作つて下さり、ありがとうございます。綴つていくこと、本当にUTAブックさんのおつしやる通りです。

私の目の中にアルバートがいます。アルバートを感じます。

何もありません。

アルバートの波動が私の心にどんどんどんどん広がっていきます。

「待つていましたよ、待つていましたよ」と、私の心に響き渡ります。

辛かつた、辛かつた、本当に辛かつた、苦しかつた、本当に苦しかつた。

でもでも、たどり着いた、やつとやつとたどり着いた、

嬉しい、嬉しい、本当に嬉しい。

号泣している私がいます。周りの友も皆涙と歎喜でぐちゃぐちゃです。

これからです。いつそう厳しい状況になつてきます。心を引き締めて、250年後に繋がるよう真摯にやっていこうとおもいます。

フォートリー・ホリデイイン

母がセミナーに参加するため、小学5年生の時に初めてアメリカに行きました。FortLee（フォートリー）にあるホリデイインホテル（現ヒルトン・バイ・ダブルツリー）は階段を上がった2階にセミナー会場があって、母はずっとそこで勉強していましたので、私はホテルのプールで外国人の3兄弟と1日中遊んでいました。泳ぎすぎたのか、更衣室で着替えていたら意識がふうっとなくなり、服のままプールにドボンと落ちて目が覚めました（これが初めての貧血でした）。他にも、当時かなりのいたずらっ子だった板倉充弘さんがホテルの天井に風船を飛ばして警報機が鳴りセミナーが中断するというアクシデントもありました。その後、（アメリカ在住だった）梶谷佳秀さんが「気分転換に」と子供たちをドライブに連れ出してくれて、景色のいい場所でアイスクリームを食べたこともとても懐かしい思い出です。あれから30年が経ちますが、アメリカセミナーは、今となっては過去であり未来でもあると感じています。



厳しい、厳しい転生でした。

お母さんの元に帰ります。

アルバートと、出会いたかつた。

それだけです。

先日頂いたメッセージが厳しく、心に響きます。あなたが幸せでなければ、人の幸せは、願えません。

タイケトメキチと言う温もりの世界に徹底抗戦している、自分の意識の世界をもつとしつかり捉えて下さい。タイケトメキチに刃向かつているエネルギー凄いです。どうぞ自覚を深めて下さい。

毎日、何回か以下の13項目に向けます。1、タイケトメキチ 2、アルバート 3、お母さん 4、肉体細胞 5、母なる宇宙 6、万象

万物は愛 7、意識の流れ—次元移行 8、意識の転回—自己確立 9、磁場反転—自己供養 10、意識—永遠無限波動エネルギー 11、アマ

テラス—心の友 12、UTA—愛への道標 13、

毎日、何回か以下の13項目に向けます。1、タイケトメキチ 2、アルバート 3、お母さん 4、肉体細胞 5、母なる宇宙 6、万象 万物は愛 7、意識の流れ—次元移行 8、意識の転回—自己確立 9、磁場反転—自己供養 10、意識—永遠無限波動エネルギー 11、アマテラス—心の友 12、UTA—愛への道標 13、

共に共に心のふるさと愛に帰ろう

250年後を思うと、ひとつの場合が浮かびます。

ハドソン川の畔（ほとり）を歩いていると、公園でワイワイと喜び合っている人達を見掛けます。

その時に、その人達に吸い寄せられていく自分と、そのまま通り過ぎていく自分の、二通りの自分が思い浮かびます。

今世の自分は、その時にその人達に吸い寄せられていく自分でありたいと思いますが、250年後に何れの自分を選ぶかは、今世の自分の学びに託されているんだと思います。

250年後へ繋（つな）げる今世の自分でありたい、あらねばと思います。

50

瞑想の中で250年後を思うと込み上げるものを感じる。

肉持てる喜び。お母さんに受け入れてもらえる喜び。250年後に確実に存在できる喜び。それは肉持つアルバートに出会えるという証（あかし）なのだから！もうもう嬉しいだけ。

あまりの苦しさに転生輪廻（てんじょうりんね）からの解脱（げだつ）を悲願としてきたこれまでの転生に、生まれてくるこ

250年後、アルバートとの出会いを、簡単に考えないでください。

非常に厳しいです。
心してください。

とは喜びだと伝えていける今に存在できる幸せを噛みしめる。

転生輪廻は喜びだった。心のふるさと、本当の自分に戻れる道筋を見つけて確かに一歩を刻んでいくための転生は喜びでしかない。

今世生まられてきてよかつた。お母さんに産んでいたいたからこそ出会えた田池留吉氏との出会い。未だ道遠しの意識の転回だけどでもそれしかないと心で納得。

「思うは田池留吉、アルバート」。自分の中のたくさんの私とともに250年後の自分に繋いでいける実践ができる今が本当に幸せだ。

お母さん、ありがとう、ありがとう、ありがとう……。

51

今が250年後なんです。今、しっかりと田池留吉、アルバート、その意識、波動の世界を心に感じ、心に広げていってください。

心の世界です。待つて待つて待ち続けてきた世界です。250年後が待っています。あなたの心の中で待っています。ともにともに心を広げてくれるのを待っています。

必ず思い出します。苦しい転生、苦しい中、田池留吉、アルバート、心が知っている、心が覚えている。心が叫ぶ。あなたの心の中の叫びが響いてくる250年後です。

今、しつかり学んでください。今が250年後、250年後が今なんです。250年のあなたとともに学んでください。

肉をください。

お母さん、私に肉をください。

今世、願つたように、私に肉を与えてください。

250年後に向けたら、喜びと、嬉しい思
いが返ってきます。

その後に、また肉を持てる喜びを切々と伝え
てきます。

未来の私が、「ただ喜んで、喜んで今の時間を
生きていくのですよ」と。

お母さんありがとうございます。再び肉を頂きます。

タイケトメキチの意識と出合います。アルバ
トと出合います。学びに集います。

今の家族とともに、沢山の友とともに学びます。
お母さんありがとうございます。再び肉を頂いてともに
学びます。

嬉しいです。ありがとうございます。お母さんありがとうございます。

出てくる思いは、ただアルバート。他は何もな
い。何もない空間に漂つて^{ただよ}いる自分が今嬉しい。

昨日までは息が出来ない、語れない、動けない、
固まつて苦しさしかなかつた。肉体細胞を責め、
悲しむ自分しかいなかつた結果だつたと思えた。

今回のセミナー現象で初めてお母さんを呼べ、それがどれだけ嬉しい事なのか肉体細胞を通して教えてもらつた。否定的にならず肉に流される自分と向き合いながら気負わず、縛らず次のセミナー、また次のセミナーへと心を繋ぎ250年後に向かおう。

教えてもらつた。否定的にならず肉に流される自分と向き合いながら気負わず、縛らず次のセミナー、また次のセミナーへと心を繋ぎ250年後に向かおう。

お母さん、アルバート、宇宙。愛の中で、苦しみを作り出してきました。軌道を外してきました。私の宇宙を汚してきました。

アマテラスとともに、ともに、出会いを果たします。やつとやつと出会えたこの真実への道。アメリカの地、ニュージャージー、アルバートの目と出会つた瞬間、ひつくり返るほどの衝撃を受けてすべてを思い出します。

「田池留吉、アルバート、必ず必ず、私は出会つてまいります。今世伝えて頂きました、母の温もり、優しさ、愛。母の懷に帰るため、母なる宇宙に帰るため、250年後の出会いを必ず果たしてまいります。」アルバートが大きく手を広げて待つてくれています。「出会いたい！ 帰りたい！」の思いがどんな私でもいいからなんどし

田池先生、ともに学んだ仲間達、宇宙の友、みんなみんな私の中でひとつの中に溶け合つて、凄まじいエネルギー、喜びの雄叫びを上げながら、跳ね回る光景が、くつきりと浮かび上ります。愛だけでした。何もない、何も持たない、何もいらない、ただ心ひとつで喜びだけを発している自分。

母なる宇宙に帰ろうの声がこだまする。「帰ろ

う帰ろう、ふるさと母なる宇宙へ、みんなひとつ、意識の世界。波動の世界、ただただ広がる広い世界に帰ります。」

57

250年後を思う時、今世を大切にただただ自分の心の中の間違い狂い続けてきたエネルギーをしっかりと見つめ、そんな自分との出会いを喜んで喜んでいける。

自分が間違つていましたと心の底から認められることが喜びでした。そして、土台の修正、意識の転回に、全エネルギーを集中していく事がすべてなんだと心に響いてくる。

250年後、アルバートに出会い、心の底から、アルバートに反発反抗し、徹底抗戦してきたエネルギー、アルバート殺してやる、死ね、死ね、死

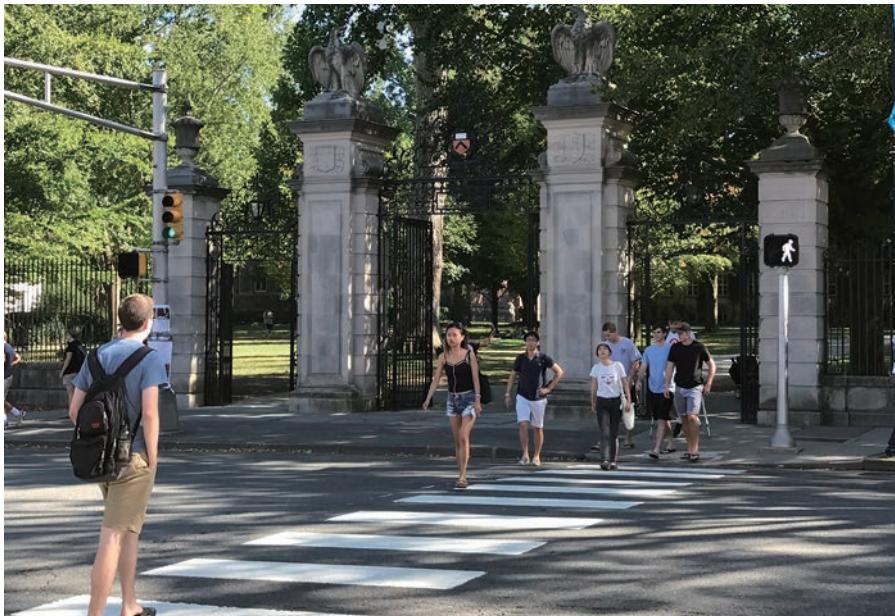
にさらせと、とめどもなく噴きあがつてくる心の叫びを噴出して噴出していく、それが嬉しくて嬉しくて、アルバートありがとうございます、ごめんなさい、ありがとうございますに変わっていく喜びに再会する。

そして、お母さんありがとうございます。お母さん生んでくれてありがとうございます。必ず必ず母なる宇宙へ帰ります。

そして、ともにともに次元移行を果たします。

私は愛でした。私は喜びでした。ただただ喜び溢れる喜びの世界へ。

そんな思いが、今、心に響いてきます。嬉しいです。ありがとうございます。



NJ プリンストン大学 ゲート周辺と校内



「250年後」に思いを向けると言われても漠然としていました。ただ、今世は250年後のための準備としてここにあるんだと思うと250年後は「本番」だからそれに向けてやつていこうという気持ちの高まりを感じました。

250年後に至る瞑想後、それを踏まえての波動の勉強で塩川さんが異語を発せられた時に、体全体から突き上げてくる歓喜のエネルギーを感じました。

田池留吉、ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。私は何にも変わつていなかつた。少し敏感になつただけ。それでもそれでも許されて愛させていた。田池留吉、ありがとうございます。250年後を思うと嬉しくてありがとうございます。

自分は意識、エネルギー、そのことを今回も強く感じたセミナーでした。

肉では考えられないほどのことを心の中は感じている、頭を回すことは通用しないし傲慢でした、それほどに僕の心は確実に250年後を捉えていました。

苦しみを消し去ろうという思いでいたことに最
近気付きました。

「人生は喜びです」と伝えていただきました。

「死もまた喜びです」と伝えていただきました。
この言葉を聞いたときは、まだよく理解でき
ませんでした。

私はずっと汚いものに蓋ふたをして生きようとし
てきました。自分にとつて汚いもの、それは自
分の心の苦しみそむでした。私はずっと自分の心か
ら目を背そむけたかった。

だから、私には、私の心そのものを封印して、
なかつたものとして、綺麗な形で死んでいきた
いという理想が根底にありました。

心を見る学びを教えてもらつて、自分なりに
心を見るつもりでしたが、私はずっと自分の

ところに、苦しい心を感じられることが喜びだ
と、これから的时间、この苦しんできた自分に
出会つて、ごめん、ありがとうと、これから一
緒にねと伝えられる時間が喜びだと感じました。
死とともに自分の心、苦しみが消滅するとは
思つていなかつたけれど、どこかでそれを望ん
でいた自分がいました。だから今の肉をそれな
りに生きて、後はこの肉体が消えるのと同時に
なかつたものにしたいという想いでした。

だけど、私は意識、この肉体が死んでもずつ

自分の冷たさを知つたときに、自分に悪かつ
たなと思いました。

こんなにも私は自分を平氣で切り捨ててきました
んだと、そのことにすら気付けなかつた自分に
驚きました。そしてその冷たい自分を認められ
たときに、苦しい心を感じられることが喜びだ

と、これから的时间、この苦しんできた自分に
出会つて、ごめん、ありがとうと、これから一
緒にねと伝えられる時間が喜びだと感じました。



ハドソン川を行くハーフムーン号（ユーヨーク発見 400 年記念行事）

と存在する意識、そう思った時に、今まで苦し
みだと感じて嫌つてきた自分は、ずっと待つて
いてくれていたんだと感じました。私はここに
いるよ、そう私に向かって叫び続けてくれてい
たんだと思いました。そしてその声を聞けるこ
とが自分に対する優しさで、そうする時間を
もつためにこの肉体があるんだと思えました。

そんな時間をもてる人生は幸せだと思います。
そしてその思いでありがとうと死を迎えられ
たら、本当に幸せだと思います。

まだまだ本当に心から受け入れるということは
難しいと思うけれど、伝えてもらつたことを自分
の中で大きくできたらいいなと思っています。

ンリー・ハドソンの思いを、ほんのちょっとでも感じてみようというわけです。このヘンリー・ハドソンこそ、ハドソン川の名前のいわれとなった人物なのです。

彼は、16世紀から17世紀初頭を生きたイギリス人探検家で、その後半生を北西航路の発見に費しました。北西航路というのは、ヨーロッパからアジアへ向かう際、アフリカを回ってインド洋に出、そこから日本・中国へ出るのではなく、アメリカ大陸の北端を回り太平洋に抜ける道を探し、そこから日本・中国へ出ようというコース

のことを言います。1609年、オランダ東インド会社に雇われ、北米中央部から太平洋へ出る航路を探すことになったハドソンは、ハーフ・ムーン号の船長としてハドソン川をさかのぼり、ニューヨークを発見するに至ったわけです。しかし、ハドソン川の遡行はオルバニーで終点となり、太平洋への航路は、当然ながら発見されることはありませんでした。(写真は、トレーダージョーというスーパーのショッピング・バックですが、ニューヨークを発見したハーフムーン号がデザインされており、そればかりか、エッジウォーター市の公式シールとさえなっております。)

そのハーフムーン号が復元され、2009年9月14日、ニューヨーク発見の400年記念行事の一つとしてハドソン川を遡行したことがあります。

小生、惜しくも見ることはできませんでしたが、しかし、次にハーフムーン号がハドソン川を遡行するのは、いったい、いつのことでしょうか？





ここでは大好きなハドソン川の名前のいわれについてご紹介させていただきます。まずは、ニューヨークからニュージャージーまで、ハドソン川を遡行するフェリーに乗船することにしましょう。ニューヨーク側の乗船場は、ミッドタウンの「西39番ストリート・フェリーターミナル」。近くには2012年12月に起工した「ハドソン・ヤード」という都市開発区域があります。完全な形で完成するのは2024年の予定となっていますが、ベッセル（下の写真）と呼ばれる展望スポットも完成し、ニューヨークっ子に「目を見張る変貌ぶり」と言わせるほどの賑わいぶりです。

このハドソンヤードを抜け、川沿いにしばらく歩くとフェリーターミナルに行き着くという寸法です。

ところでフェリーは、ハドソン川を対岸にまっすぐ渡るのではなく、ハドソン川を上流へ約3キロほど遡行する形でニュージャージーの「エッジウーター」へ向かいます。約15分の船旅ですが、今からほぼ400年の昔、ハドソン川を遡行しオルバニーに行き着いたへ



ますと、1613年、平戸にイギリス商館開設時の商館員のことが目にとまりました。そこには商館長コックスが、ボーイとして雇った少年のことが書かれています。その少年の名がリチャード・ハドソン。ここでハドソンという名にひっかかりました。まさか……と思いつつ、コックスが彼を雇った経緯を読んでいて唖然^{あぜん}としました。少年の父はある探検航海に従事しているさなか、彼の兄と共に行方不明になったというのです。この頃、そうざらに探検航海で父親が行方不明になるなどということはないでしょう。それも事件が発生した2年後、アメリカから日本に渡ってきたスペイン船の中から少年は発見され、ハドソンという名前までが同一だとなると……。

しかし、ディスカバリー号の反乱事件で、ハドソンとその息子ジョン(19歳)については知られていますが、その下に弟がいたという記録はありません。

ヘンリー・ハドソンは、ディスカバリー号に息子ジョンばかりか幼い弟のリチャードまで乗せていましたのでしょうか？ 今となっては、それを確かめる術はありませんが、事実だけを記載すると、リチャード・ハドソンという少年は、1613年、アメリカ(ヌエバ・エスパニャ)を出港し、日本の浦賀に入港したスペイン船から、ウイリアム・アダムスこと三浦按針が発見し、平戸イギリス商館にボーイとして雇われているのです。母船から追放されたハドソンら一行が、小舟でアメリカ東海岸を南下しバージニア植民地を目指したとして、そこからどのようにすれば日本へ渡ってこれるのでしょうか？ しかしこの謎解きまでしていると長くなりますので、事実は霧の中ということで、イギリス、スペイン、アメリカ、日本をつないでのハドソン談義、この辺でお開きといたします。



ジョン・コリア描くところの『ヘンリー・ハドソンの最後の航海(1881年)』描かれた子供は19歳の青年とは思えない。



ここでは、ヘンリー・ハドソンと日本との不思議なつながりを紹介いたします。これはどんな歴史の教科書、解説書にも紹介されておらず、小生がたまたま発見したことであり、自慢たらしくも、ここに一部を紹介させていただく次第であります。

1610年、ヘンリー・ハドソンは、
今回は息子を伴っての探検行。イギ

リス東インド会社とバージニア会社の共同出資により、ディスカバリー号の船長として、アイスランドからグリーンランド、そしてハドソン海峡、ハドソン湾の発見と北への航海を続けます。しかし氷に閉ざされ越冬を余儀なくされます。そして、翌1611年春、ようやく氷の海から解放されますが、航海を続けようとしたハドソンに対し乗組員が反乱を起こし、ハドソンはディスカバリー号から、その子・ジョンや一部の船員と共に小舟で追放されことになってしまいます。この後、ディスカバリー号はイギリスへ帰港し、乗組員たちは海事裁判を受けることになります。しかしアメリカ大陸の情報、さらには北西航路の情報を欲するイギリス政府は、彼らを情報提供を条件に無罪とします。ハドソンの妻はアメリカへ捜索の船を向けていますが、ついにハドソンらの消息を知ることはありませんでした。

以上が、これまでディスカバリー号の反乱事件と、ヘンリー・ハドソンの遭難について言われてきたことのあらましであります。

ところで何を隠そう、私めは、かつて平戸イギリス商館の歴史に大いに興味をもったことがあり、ニュージャージーでハドソン船長のことを知るなり、なぜか平戸イギリス商館への思いがぶり返し、帰国するなり、「英國商館長日記」を引きずり出しました。日記を読むでもなく、パラパラとめくってい

素直に「ありがとう」って言える自分とともに
「250年後」に向ければ、「嬉しい」って思います。

250年後なんか、分かるものか、今がこんな
にも苦しいのに何が来世なんだ、くそたれがガ

タガタ言うな、ガタガタぬかすな、おとなしく

してりや、次から次へとうるさいんじや！ いい
かげんにしろ！ くそ田池！ 250年後に出会つ
たら、お前のど頭をぶん殴つてやる、おぼえて
おけ、くそたれが、お前の首をしめて殺してやる、
今世の怨みきつと晴らしてやる。待つていろ！
今から今から楽しみにしている！ 必ず出合えよ、

逃げてみろ、どこまでもどこまでも、ついてゆく、
地獄の底から生まれてきたんだ、待つていろ。

苦しい自分、悲しい自分、寂しい自分。恨み呪うらのろ
いすべてを殺してきた苦しい自分の心のまま、今
世の人生を過ごしてきました。この学びを始めて
34年……この苦しい心を救うために生まれてきた
のに……苦しい心の上乗せばかり。

学びに集つても何も学んでいなかつた。残され
た時間しつかり心見て……来世250年後に必ず
繋つなぎたい。繋いでいく。

250年後を思うとありがとうありがとうあり
がとう……田池留吉ありがとう。もつともつと心
しつかり見てありがとう、うれしい心を広げてい
きたい。必ず繋げていきます。うれしい思いが広

がります。共に帰ります。嬉しいです。

「お母さん、アルバートとの出会いをありがとうございました」

65

言葉として出てきたのはこれだけですが、うれしくてうれしくて、喜びが噴出してきて、しばらく止まりませんでした。

ありがとうございました。

意識は250年後に飛んでいます。250年後の私に強く引導される。今世は終わつたような、おまけの時間を頂いてるような感じです。ありがとうございます。ありがとうございます。私は肉を持つて、意識、波動が真実である事を学ばせて頂きました。今世を境に真実の世界へ、ひとつ的世界へ、心を馳せ本当の自分に帰つていきます。

67

何回かやつて いるうちに苦しい思いを感じました。

それからまた数日して、苦しい思いと少し温かさも感じられました。

66

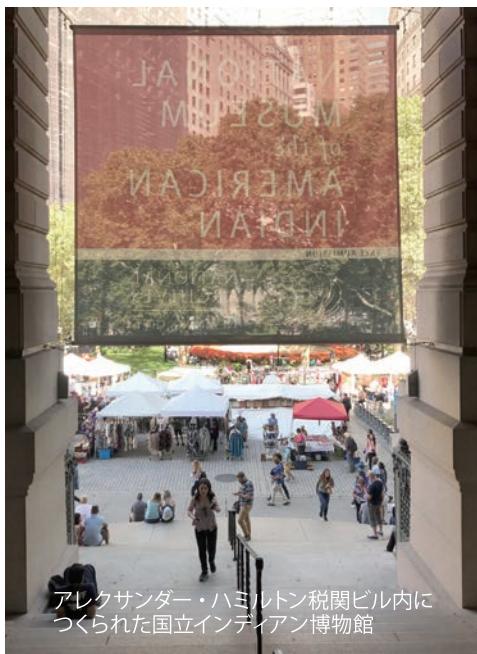
今日10月9日のズームの視聴での瞑想で出てきた思いです。

インディアンにとっての最大の不利は、各部族が、それぞれに誇らしく自由で、決して一つにまとまることがなかったことです。

複雑な戦いの展開に触れる余裕はありませんが、インディアン戦争は、ほぼ1世紀にわたって繰り広げられ、1890年の第7騎兵隊によるウンデットニーのスー族虐殺事件で収束するに至りました。

この虐殺事件は、インディアン戦争の象徴として語り継がれ、その80年後の1973年、白人のリンチや暴行に耐えかねたインディアンたちが蜂起し、かつての虐殺現場のウンデッドニーに結集し、71日間に及ぶ「ウンデッドニー占拠事件」へとつながっていきます。これを機にインディアン戦争は、「苦しんで行儀のよい白人となるより、誇り高いインディアンに」という「レッドパワー運動」として新たな戦いの側面を迎えることになるのです。

ニューヨークを訪問した際、念願の「インディアン博物館」の見学に行きましたが、ヨーロッパ文化の粹を集めたような税関ビルの中に、アメリカインディアンの様々な文化遺物が行儀よく陳列されておりました。



アレウト、アパッチ、アラパホ、カウイラ、カタウバ、チェロキー、コマンチ、ダコタ、ホーチャンク、イヌイット、イロコイ、オタワ、ヤキ、レナペ……これはほんの一部で、まだまだ続きますが、いったい何だと思います？

これは、すべてインディアン種族の名称なんです。カリフォルニア・インディアンと言われる分類だけでも 100 近い部族が数えられ、アメリカ合衆国全体では、いったい何百部族あるものやら見当もつきません。

ちなみにニューヨークには、レナペ族というインディアンが住んでおり、先に紹介したハドソンの探検航海以降、オランダ人毛皮商が、当時ヨーロッパで大流行したビーバーの毛皮交易のため、大挙してこの地に住み着くようになりました。このため 1627 年、オランダはインディアンたちに物々交換を持ちかけ、マンハッタン島を譲り受けることとなります。その時の代償がなんと「布と短剣とビー玉」という、わずか 24 ドル相当の品だったとい



アレクサンダー・ハミルトン税関ビルのホール

うことです。マンハッタンの名も、このレナペ族の言葉で「丘の多い島」という意味だそう……。

さて、このヨーロッパ人の入植からインディアンとの関係が始まりますが、それは「インディアン戦争」という言葉に代表されるように争いの歴史でした。

当初は、インディアン部族間の抗争を列強が利用した、代理戦争的な面もありましたが、アメリカが独立するによんで、戦いの様相は、白人対インディアンの抗争に一本化されていきます。ここで

250年後に向けてと、思つたら私は肉体を持つつてゐるのかな?

この今の肉を手放し次の肉をもらう事も、狭心症であつた母親も壮絶な姿で逝つた主人も去年死んだ愛犬翔に続いて10日前に死んだ犬のラスターを思つても、肉体を持つことの重きが心にしみます。

今も、息をしてるかな?と寝てる父親をのぞき込む生活の中で、ああ、私にはもう無理かもと、根を上げかねない時でも、私は愛ですと心を向けられる今を250年後に、つなぎます。

250年後
思いを向けるだけで嬉しい。こんな私でも思
いを向けるとただ、ただ嬉しい。

いつも、「こんな私でも……」が出てくるが、裏を返せば私はえらい、私は一番、私はすごい……を心に秘めているようだ。

表面だけは学びは何もわからない、敏感でもない、何でもない、いつまでたつても何もできていないと肉で思おうとしているようだ。

小さいころ（生みの母と離されて）寂しくても、決して寂しいを口にしなかつた、できなかつた時、表面を取り繕う事でどうにか肉を維持していたんだろう。もう、正直に心に正直になろう。どれだけ学んできたんだ、250年後と聞いて「嬉しい!嬉しい!」だけでいいではないか。何

もわからなくとも嬉しいと思える。

それが嬉しい。思えば意識、ゼロ歳も今も 250年後も意識は同じだった。転生が嫌だつたが嬉しいものなんだと思えるようになつた。

70

250年後に向けて瞑想をしました。
いつも何も感じませんが、今日は途中で「必ず出会いを果たします」という思いが出てきました。

自分でびっくりしました。

追伸

先日は首が痛くて肉体細胞、一気に死滅している感覚でした。けいこさんのお店の生体水を注文して、母親とオーリング実験してみたところ、かたく、お水もおいしかったです。

72

昨日、ズームで、みなさんと一緒に瞑想させていたいたいた時、最初の瞑想で、肉では別々の人間、みんなの顔を見て、肉で、うれしいと感じても、自分は寂しい心でいっぱい。

肉の思いに振り回されながらも、思いを向け

71

肉からの脱却は難しく、今のままでは、250

年後につなげることは大変厳しい。

今までは、250年後は、真っ暗だと感じました。

しかし、その後、みなさんと一緒に250年後に思いを向けるとただただ喜びでした。

ひとつでした。

お母さん、ありがとうの思いがあがつてきました。

250年後の自分を真っ黒で、真っ黒で、真っ黒で、どうしようもないほど真っ黒でどうしようもない愚かな自分をこんな自分でも、田池留吉、アルバートは、両手を広げて待っていてくれていると感じました。

本当に、肉、頭では、わからない世界だとびつくりしました。

学びの機会をいつもありがとうございます。
反省と瞑想を続けます。
ありがとうございます。

73

250年後までには2回ほど転生てんしょうがあるよう

です。

つまり3人のお母さんに産んでいただけます。

ありがとうございます。

今世の母に使った思いをまたこの母たちにも向ける、愚かな自分が出てきます。

出来ることなら、感謝の思いを伝えたいのに、

来世の私は愚かです。

それでも生まれてきます。

250年後、ハドソン川、という言葉に反応します。

私も貧しい黒人です。

喜びを爆発させるために、苦しい転生をつながります。

ありがとうございました。

なんだか心がふつと軽くなつた。遠い記憶。そして、私は過去にアルバートを呼んだことがある。

友と一緒にアルバートを呼んだことがある。その記憶がうつすら蘇つて、ほんの一瞬たつたけど嬉しい思いが出てきた。

74

苦しい、苦しい、苦しい、苦しい……

生半可な転生ではないと感じる。とても苦しい。

今世と同様、それ以上の苦しさを感じる。

しばらくは、苦しみに埋め尽くされた自分の世界しかない。

母を見下げるだけだった。

おまえさえ、こんな環境に産みさえしなければ、おまえさえ、おまえさえ。

母を恨み、母をさげすむことしか自分を保てなかつた。

母は黙つてすべてを受け続けてくれた。

たら、ああ、アルバートか、どこかで聞いたような気がする。

おまえさえ、おまえさえ、ぶつけてもぶつけても、母は受け続けてくれた。

75

63

母を呪い、世を憐み、絶望に絶望を重ねた真つ暗な意識が爆発していく。

アルバートとの衝撃の出会い、すべてを知つているあの目。

なんということか、心の中が爆発し、崩壊していく。

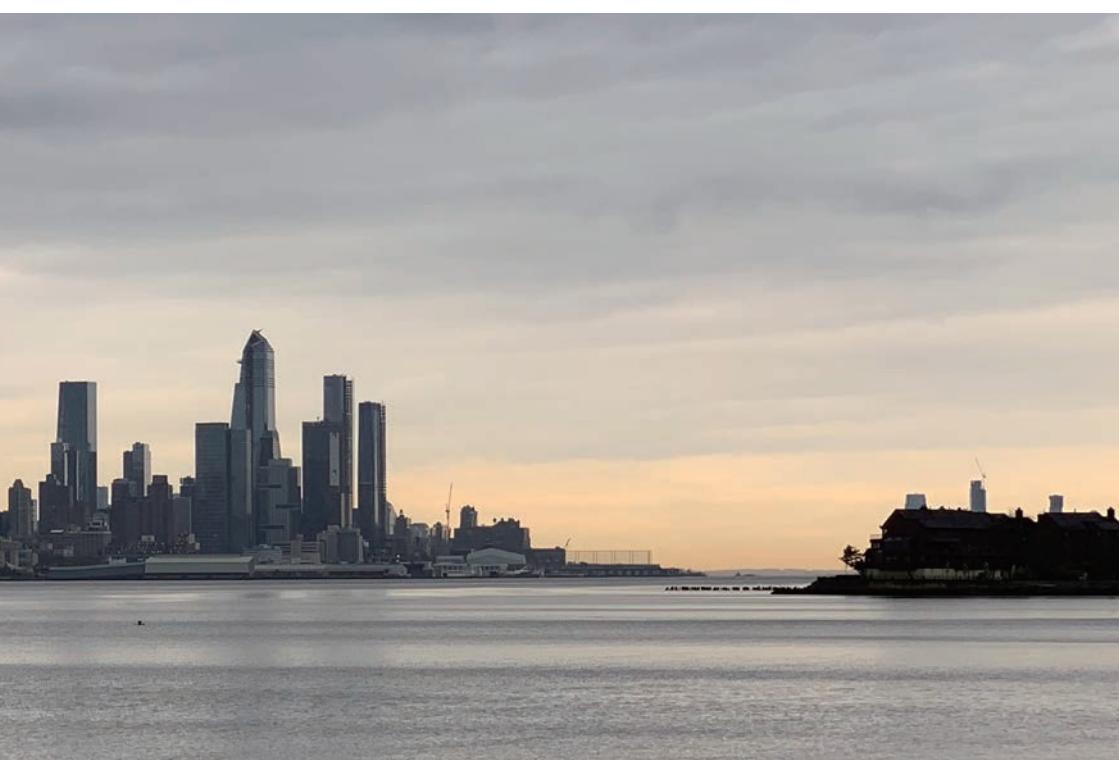
すべての苦しみが喜びで爆発していく。

ありがとう、ありがとう、苦しみ続けた3次元のこの地球よ、ありがとう。

すべての闇が大転回していく。

苦しみが喜びでした、ありがとうとこの地球をあとにしていく。

250年後に繋がる自分の転生は、本当に厳しいものだと感じます。



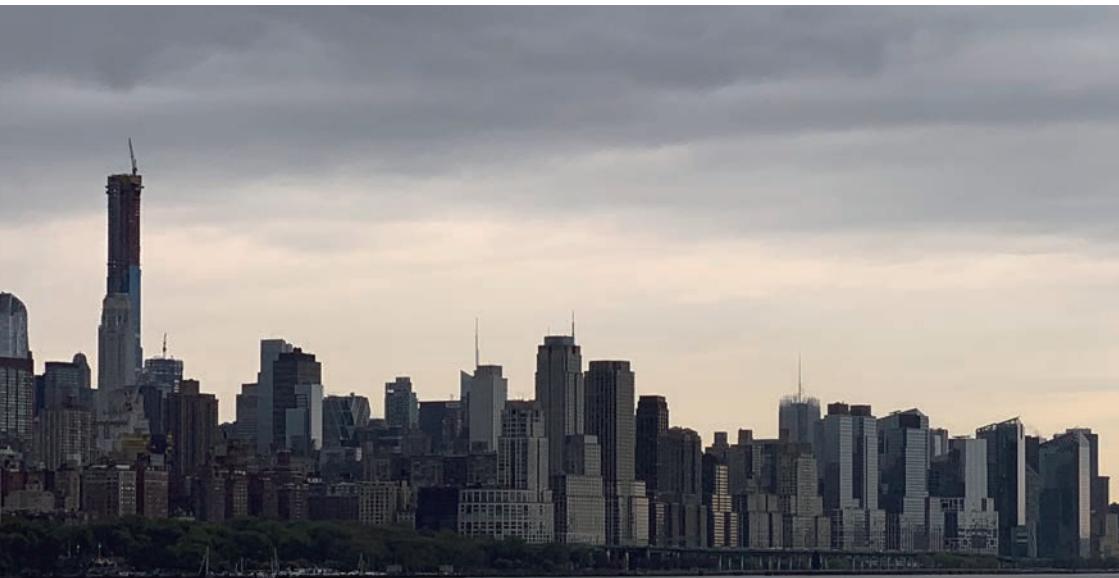
今世の時間がどれほど恵まれているかも、切ないほど感じます。

だけど、自分の心に田池留吉の波動が意識の世界で芽生え始めてくれている気がします。

肉じゃないと伝えてくれた。真実の波動の世界を伝えてくれた。本当に知りたかった世界を教えてもらつた。何があつても250年後に繋いでいこう。

そんな思いが出てきてくれます。

250年後を思うとアメリカ、アルバート、次元移行、宇宙と出てきます。自分の中の宇宙と共に必ず必ず次元移行したい。



目を閉じて田池留吉を思い、250年後に思
いを向ける。

自分の死後を思う時、いつもは凄まじい渦流
のようないエネルギーを感じるのに、はじめて、
何とも言えない静かな世界、250年後に向かつ
て真つすぐに伸びている道のようなものを感じ
ました。

普段生活をしている肉の世界、目を開けてい
る世界は、正反対で狂ったエネルギーが吹き荒
れていきました。

目を閉じれば、こんなにも静かな世界が広がつ
ていたんだと、改めて納得した感じでした。
意識の流れは静かに、力強く、厳然としてあ
るということを、ほんの少しですが、心で感じ
させていただきました。

田池留吉との出会いがすべてでした。待つて
待つて待ち続けた本当の喜びと温もり、本当の
自分との出会いが今世ありました。

宇宙を思う瞑想をすると、この出会いをあり
がとう、田池留吉が伝えてくれている温もりに
帰りたい、帰ろう、自分の叫びが素直に出てき
てくれます。とつともあたたかいです、そして
嬉しいです。何ともいえない喜びと温もり。

小さくとも、心に灯つたこの喜びを、250年後
の自分に、そして250年の間肉を持つ自分に繋
いでいこう、大きく大きくしていこう。それが自
分にできる最大のやさしさだと感じます。

250年後までの転生の中、真実を伝えてく
れる肉との出会いがない、セミナーもない来世
の自分が待っているのは、この喜びと温もり。

250年後を思い、自分のために今できること
は、田池留吉・アルバート、母なる宇宙を思う
瞑想です。

「田池留吉を思い、その喜びとありがとうを心
にどんどん広げていきなさい」

田池留吉のメッセージは本当にやさしかつた
んだと、250年後を思うと心に響いてきます。

80

250年後

あー嬉しい、アルバート！ 嬉しい！

少し前までは、自分の中では、250年後が
少し遠かつた。自分の中では、250年後の前に、
宇宙が広がっている感じがする。

最近は、宇宙に向ける瞑想が本当に嬉しい。
どんなにこの時を待っていたか、嬉しい、嬉しい、

嬉しいです！ どんどんこのエネルギーを出して
出して出していきながら……、あー、250年
後を迎えます。私は、このエネルギーと向かい
合いたかつた。ありがとうございます。

250年後は、喜びなんです。肉ではわから
ない、肉の感じは伝わってこない。意識、意識、
と伝わってきます。私たちは意識。その喜びを
吹き上げていきます。ありがとうございます、タイケトメ
キチ、アルバート！

81

250年後の私に、「私は意識です」の思いを
つないでいきたい。



NY マンハッタンを歩く



250年後に思いを向ける。頭では分からな
いけれど、心の中に響き来るものがある。

思いを向けられること、そのことが嬉しい。
250年後を思うことで、今の自分に存在する全
ての思い、過去世、今、^{てんしょう}転生の思いに出会う。一
緒に存在しているそんな感覚があり、250年後
に繋がっていることを感じる。

自分の心の中に全てが一緒に存在して、250
年後と思うと繋がっていることを感じられる。

苦しい思いもいっぱいあるけれど嬉しい。
思えることが嬉しい。

はい、250年後、苦しい苦しい爆発しそうな

250年後を思つて瞑想をしたら「お母さん
に産んでもらつた」と喜びでした。

苦しみを抱えて私は生まれてきます。今度こそ、
今度こそは、と泣き叫びながら懇願し肉をもら
います。今、私の250年後はとても苦しいです。
狂いに狂つた心で荒れ狂つています。今ままで
は250年後、次元移行の号令にのることは
とてもできない、厳しさを感じます。もつと真
剣に学び（自分）と向き合つてくれ、250年
後の私が待つて待つて待ち構えている。しつか
りと心を繋いでくれと待ち構えている。そんな
思いが伝わってきました。

場所だと言います。墓地ばかりか処刑場でもあり、ニューヨーク港に入った奴隸船から逃亡した奴隸が、この木で絞首刑にされたのだと言います。

アメリカ南部なら、なるほどと思うのですが、奴隸解放の発信地・ニューヨークで黒人奴隸の私刑となると、どうもピンときません。しかし調べてみると、18世紀のニューヨーク港は奴隸貿易の中心地だったのです。ウォール街の突き当たりに、サウスストリート・シーポートという桟橋がありますが、当時、この辺り一帯が奴隸市場として賑わっており、現在のハーレムあたりは一面のサトウキビ畑で、ここで働かされる黒人奴隸も多く、当時、ニューヨークの黒人人口は、南部奴隸州よりも多かったと言います。ただ南部との大きな違いがあります。19世紀に入ると、黒人でも市民権が得られ、農場の所有権まで持つことができ、ニューヨークの黒人人口の3分の1が自由市民になっていたのです。

当初は、ニューヨークも奴隸貿易、奴隸経済で繁栄したのは間違いないありませんが、その後、ニューヨークは、黒人奴隸にも自由が約束される「開けたアメリカ」として歩み始めていたのです。

あたかも、それを象徴するかのように、このワシントン・スクエア公園の近くに「クーパー・ユニオン」という芸術関係の私立大学があります。この建物の地下にある「グレートホール」で、リンカーンの奴隸解放に関する重要な演説「クーパー・ユニオン・スピーチ」が行われました。このクーパー・ユニオンから奴隸解放への第一歩が踏み出されたのです。





5年程前のことになりますが、当時、ニューヨークに在住していた澤田敏夫さんに案内していただき、このワシントン・スクエア公園を散策したことがあります。その日は天候もよく、凱旋門の下ではピアノを運び込んでのパフォーマンスがあり、

芝生の上ではペットの犬と戯れながら画板に絵筆を走らせるアーティストの姿がありで、本当に長閑を絵に描いたような風景が広がっていました。

その長閑さを暗い陰が覆いました。澤田さんの指さす方向に見上げるような榆の木があります。その巨木は公園の風景に溶け込んでおり、普段なら何の関心も向けず通りすぎてしまうところですが、澤田さんが立ち止まり、その木の遙かてっぺん近くを指さしました。そこにはこの木の名前でも記しているのでしょうか、小さな表示板が打ち付けられてありました。その看板は、肉眼では読めないような高みにあり、そこでiPhoneを望遠鏡代わりに目いっぱいズームを効かせ、パチリ——その画像をさらに拡大してみると、「English Elm」、つまりイングリッシュ・エルムと言われる榆科の高木と表示され、その下に小さく「Hangman's Elm」と書かれています。ではこの穏やかならぬ「首吊りの榆の木」とはどういう意味なのでしょうか。

澤田さんは、この辺りはかつては湿地帯であり墓地があった



「くそつたれ！くそつたれ！ブラックで悪い
か!! アルバートぶつ殺してやる!! 苦しい苦しい

苦しい!! 肉をください。私の宇宙を変えていき
たい。おかあさんに帰りたい！帰りたいんだ！」

250年後、私はこの思いとともに肉を持ち
ます。

くなってきた。後押ししてくれた文言も大らか
に心いっぱいに広がっていく。あの時「はい」
と即答できなかつた愚かな肉にも、ありがどん
とでてくる。

私を繋いでくれた母の思いが感じられて嬉し
い。アルバートと出会うストーリーが心にあ
る幸せ、私のものだ。その度に250年後に繋
いでいく今がほんとうに正念場だと痛感する。
250年後に存在するのは私次第、今もこれか
らも。

「あんたとは又会うな」田池先生が亡くなる3
か月ほど前に電話で伝えて頂いた。

「はい」と言えない私がいて、信じられない思
いが苦しかつた。みんな肉で捉えていたからだ。
今、250年後に向ける瞑想が少しづつ楽し

セミナー前に向けた時、「待っています。待つて
います」と優しい思いが上がつてきましたが、セ
ミナー後に向けると、「ありがとうございます。セ
りがとうございます」と嬉しい思いを感じました。

「待っています」嬉しかったです。
ありがとうございます。

ズーム「死ぬまで瞑想」参加してとても嬉しいです。250年後に向けての瞑想の時はまだ嬉しいです。250年後に、肉を持って次元移行へと、という思いが、過去世と一緒に、ともに必ず母なる宇宙へ帰ろう、その為に今世肉を頂いてきたと、愚かな肉にも伝わり、その喜びが感じられるようになり、嬉しいです。肉ではない、波動・喜びなんだ、肉という思いはただ苦しいだけだと、思えるようになつた。感じます。

良かったと、喜びの中にあつたんだと、それを伝えて貰つた事に感謝です。田池先生、塩川さん、ありがとうございます。そしてUTAブックのスタッフの皆さんに感謝です。

「250年後」
苦しみの私が、地獄の奥底の私が、
田池留吉を、アルバートを呼んでいる。
呻きながら、呼んでいることが、うれしい。
うれしかつた。

6月末から1ヶ月ほど右足の太ももから足首ま

で激痛が走り、立つことも這うことも出来なくなっていました。その時の痛みから伝わってきた思い、自分の思い、が今も嬉しくて心にしつかりと残っています。激痛に悲鳴を上げている自分、お薬を欲しがる自分、しかしそれだけではない自分が自分の中から突き上がってきたんです。

この激痛、肉体細胞を通して私に伝えてくれている。こっちだよ、こっちだよと、厳しいけれど優しい、自分が自分に伝えてくれている。ちよつとと思っている思いがどれだけ傲慢か、足の疼きは、心の疼きだと思いました。

意識の流れはすべてに力強く喜びで呼びかけてくれている。自分のこれから^{てんしょう}の転生、250年後、アルバート、次元移行に繋いでいくには意識の転回しかないと。

苦しい苦しいとしか言いようがなかつた過去たち、今世やつとやつと巡りあつた眞実のぬくもりの波動、田池留吉、アルバート、母なる宇宙の意

識の世界にともにともに帰ろう、帰れるんだ、帰ろうと250年後の自分に心馳^はせていきます。語らせていいただきありがとうございます。

92

温もりに帰りたい、愛に帰りたいと自分の中の宇宙が叫びだします。

心強い思いです。暗黒の宇宙にしてしまい申し訳なかつた。それでも信じて待ち続けてくれている思い。

田池留吉、アルバートとともに愛に帰る意識。嬉しいです。ありがとうございます。

アルバートを殺してやる！
その思いとともに、アルバートに出会いたかつた。

母なる宇宙に帰りたかったのだと思いました。

250年後の私が待つててくれている。帰つておいで、帰るんだ帰るんだといつもいつも伝えてくれている。千載一遇のチャンスを得て、どれだけ幸せものだったか、環境を呪い、何故こんなところに産んだんだとお母さんを恨んできただれど、ああ良かつた、良かつた。お母さんありがとうございます。250年後の出会いを逃さぬよう、意識の転回に努めます。

アルバート
嬉しいです。

瞑想した後、嬉しくて喜びました。

目を瞑つたら、アルバートが深刻な顔をして人生を悩んでいる姿がなんか響いてきました。いい波動を感じながら近づいていきたいなど思いました。

ありがとうございました。

間違つて、間違つて、間違つていた。お母さん、私は間違つて、間違つて、間違い続けてきた。お母さんごめんなさい。

会いたかった、会いたかった、会いたかった。アルバート、アルバート、アルバート、アルバート。

250年後に向けた時に出てくる思いは、「250年後、喜びで待っています。」です。自分が自分に送る、そのメッセージが喜びで、嬉しさが伝わってきます。その呼びかけに応えていきたいと、愚かな肉も感じています。

「苦しい、苦しい。今やるしかない」という思
いです。

ありがとうございます、ありがとうございます。
やつとやつとやつと出会えた田池留吉、アル
バート、母なる宇宙。

汚しまくってきた宇宙とともに、この時この

出会いを待つて待つて待ち望んでいました。

愛、心のふるさと母なる宇宙。

嬉しい、嬉しい、ただ嬉しい。

何にもなくとも初めから幸せでした。

幸せだった。



NJ フォートリー・独立戦争の砦跡にできた公園

こんなにも大きくて温かい温もりに包まれてい
たことを感じ、ただただありがとうございました。

101

セミナー会場で仲間の人達と共に、250年
後に思いを向けました。

お母さんに生んでいたいたこと、生んでい
ただくことがただただありがとうございました
上げました。

そして心を見ていただけることが嬉しいと感じま
した。ありがとうございました。

プリンストンとその周辺地域には、多くの人々が住んでいた長い歴史があります。「オリジナル・ピープル」を意味するレニ・レナペのネイティブ・アメリカン部族は、何千年もの間（1万年以上という説もあります）この地域に住んでいました。彼らのテリトリーは、ニュージャージー州、デラウェア州、ニューヨーク南部、ペンシルベニア州東部が含まれています。もちろん、ヨーロッパの植民地の侵略後、レニ・レナペは1600年代に彼らの土地から追い出され、プリンストンは1683年までに様々なヨーロッパからの植民者が定住することになりました。

プリンストンはイギリスのウィリアム3世に敬意を表し「プリンスタウン」と名付けられ、1756年には、もともとニューアークに位置していたニュージャージー大学の本拠地となり、現在はプリンストン大学に改称され、コロニー最大の学術ビルであるナッソーホールに大学全体が収容されました。

数年後の1765年、イギリスの支配を打倒する植民地反乱（独立戦争）がおこり、1777年1月、プリンストンの戦いは、ジョージ・ワシントン将軍率いる革命軍の勝利を決定的なものにしました。

アメリカ人は、この時までイギリス人にかなりひどく負けていましたし、軍の士気は常に低かったのですが、プリンストンでの勝利の後は士気が高まり、彼らは戦争に勝つかもしれないと信じ始めたのです。

1世紀後、英国の歴史家ジョージ・オットー・トレベリアン卿は、プリンストンでの勝利について、「世界の歴史に大きく、より永続的な影響を及ぼす短い時間を、これほど少ない数の男性がなしたとは驚嘆すべきことだ」と、アメリカ革命に関する研究に書き記しています。

興味深いことに、独立宣言の署名後、そして1783年の夏に、大陸会議はナッソーホールで会合を開き、プリンストンは4ヶ月の間、アメリカの首都となったのです。

（訳は自動翻訳結果を要約したものです。）

History:

Princeton and the surrounding area has a long history of being inhabited by many people. The Native American Tribe of Lenni-Lenape, which means “Original People”, had lived in the area for thousands of years, some texts cite 10,000 years or more. Their territory included New Jersey, Delaware, southern New York, and eastern Pennsylvania. Of course after the invasion of the European colonials, the Lenni-Lenape were driven from their land in the 1600s and Princeton became settled by various European immigrants by 1683.

It was named Prince-Town in honor of Prince William III of England, sovereign prince of Orange- Nassau. In 1756 it became the home of the College of New Jersey, which was originally located in Newark, -now renamed Princeton University - with the entire college housed in Nassau Hall, the largest academic building in the colonies.

A few years later in about 1765, the colonies no longer want to be controlled by the British. The colonial revolt to overthrow British rule in the Americas occurs about this time. During the American Revolution, the Battle of Princeton, fought in a nearby field in January of 1777, proved to be a decisive victory for General George Washington and his troops.

During the struggle for American Independence, it was the victory at this battle that was the turning point for the Americans in the Revolutionary War. The Americans were losing quite badly to the British up until this point and army morale was at an all time low, they were losing men left and right. But after the victory at Princeton, morale rose and they began to believe that they might win the war. A century later, British historian Sir George Otto Trevelyan would write in a study of the American Revolution, speaking of the impact of the victory at Princeton, that “it may be doubted whether so small a number of men ever employed so short a space of time with greater and more lasting effects upon the history of the world.”

Interestingly, after the signing of the Declaration of Independence, and during the summer of 1783, the Continental Congress met in Nassau Hall making Princeton the country's capital for four months.



NJ 独立戦争最後の戦場となったプリンストンの古戦場
当時から建っていた農家は、今では史料館となっている。



実用的な利益は、多くの場合、最も基本的なレベルで純粋な学術研究から生じるが、そのような利点は保証されず、予測することはできません。彼らが究極の目標と見なされる必要もありません。未知の領域へのベンチャーは必然的にリスクのエレメントを伴い、^{ともな}科学者や学者は最終製品の考えによって動機づけられることはめったにありません。むしろ、学術的な問い合わせの特徴である創造的な好奇心に感動します。

- エイブラハム・フレックスナー 創業者

1930年、プリンストン高等研究所が設立されました。それは国の学者のための最初の研究施設であり、設立する際の指導原則は、独自の知識の追求でした。研究者は教える授業がなく、研究は決して契約も修正もされません。自分の目標を追求するのは、一人ひとりの研究者に^{ゆだ}委ねられるのです。

創設者は、アルバート・AINシュタインを最初の研究者一人に招待しました。AINシュタインは1933年から1955年に死去するまで研究を続け、彼によって研究所は世界で最も有名な研究センターとなりました。研究所は、彼が何の圧力もなく研究できるように寛大な資金を提供し、ここにいる間、AINシュタインは統一されたフィールド理論の目標を追求しました。

私がプリンストンに惹かれたのは、アルバート・AINシュタインが彼の後半生のすべてを、この地で送ったためです。彼がここで人生の最後の20年間を過ごし、宇宙と時空に焦点を当てて多くの時間を費やしたという事実は非常に興味深いものでした。宇宙と宇宙に関して、私は何か無形の引力のようなものを感じたのです。

(訳は自動翻訳結果を要約したものです。)



プリンストン高等研究所

ジェニー・ライ

"While practical benefits often result from pure academic research at the most fundamental level, such benefits are not guaranteed and cannot be predicted; nor need they be seen as the ultimate goal. Ventures into unknown territory inevitably involve an element of risk, and scientists and scholars are rarely motivated by the thought of an end product. Rather, they are moved by a creative curiosity that is the hallmark of academic inquiry."

-Abraham Flexner, Founder

In 1930, the Institute for Advanced Study was founded. It was the first residential institute for scholars in the country and the guiding principle in founding the institute was the pursuit of knowledge for its own sake. The faculty have no classes to teach and research is never contracted or directed. It is left to each individual researcher to pursue their own goals.

The founders invited Albert Einstein to be one of its first faculty members. He served as a faculty member from 1933 until his death in 1955. Through Albert Einstein, the Institute became the most famous research center in the world. The Institute provided generous funding so that he could pursue his research without pressure. While here, Einstein pursued the goal of a unified field theory.

I was drawn to Princeton because of Albert Einstein and the work that he did and continued to do here. The fact that he spent the last 20 years of his life here and spent much time focused on the universe and space-time here was very intriguing. I felt something intangible pulling at my heart regarding space and the universe here.



Institute for Advanced Study

お母さん、お母さんありがとう。約束を守つてくれてありがとう。うれしい、お母さんありがとう。

嬉しい思いが込み上げてきました。

田池先生と出会つてから35年になります。先日、昔の田池先生のセミナー映像をみていたら、いつものように、あー！この時もつと学びを理解していましたなあつと後悔してまた自分を責め始めたとき、今の自分が、その時の自分に「分からんかったんやね～。一生懸命分かろうとしたけど、何が

間違つてるかも分からんかつたんやね～」つて、その時の自分をはじめて愛しいないと、優しい思いで受け入れられた感じが嬉しかった。

250年後、この先の自分がこんな感じで、待つてくれると、信じて心を見ていきます。

250年後を思う

アルバートと繰り返し心の中に呼びかける……ぬくもりがだんだんひろがつていくのを感じます。

幼子の私が田池留吉の胸に飛び込んだ体験を思い出します。

飛び込んだ瞬間、そこは宇宙空間でした。肉体は無い。でも確かにそこに存在していました。同じ存在でした。

あなたも私も同じ、一つですと田池先生の言葉を思いました。

ともに暮らしている家族が一人、二人と亡くなり、淋しさの中にうずくまる日々でした。

淋しい心と瞑想していると、あなたの勉強やで、と心に響いてきました。暖かなぬくもりを感じました。

何のために生まれてきたのか……多くの意識

たちと共に母なる宇宙に帰りたい。

お父さんお母さん生んで下さつてありがとうございます。こうして肉体を預いてこの学びをさせて頂いていることが幸せです。心で感じたことを信じて進んでいきます。



105

向けると大変な感じがしましたが、それくらいだったので、10月3日に使われたポッドキャスト199回の音声を聞いてしたらどうだらうと思、い、2回してみました。

1回目、250年後の思いが必死に今の私に心の向け先を教えてくれているような気がした。

2回目、250年後の私が待っているんやなあと思った。

自分に心を向けていこうと思

う。

うか。天にも昇るような有頂天でした。

真実を求めて走り続けていた私は、田池先生とやつと出会うことができ、わき目も振らずに、喜び喜びでセミナー会場へ一目散。いちもくさん。胸からドロドロとしたものが出てきたような感触にびっくり、呑み込み抑え込んでいた私に、隣に座つて

いらした方が、異語？ 出していたよ。と言われた。何故か分からぬいけれど、これまでやらなければならぬことを、やらず仕舞いにしてきた自分を責めていた。そして肉の自分をチャンとして、再びタイケトメキチに挑んだ。いとするとタイケトメキチの目を見たとたん、飛びかかつたと思つたら、風に吹き飛ばされる枯れ葉そのもの、何？ これは人間の動きじやない、長年飼つていたワンちゃんと広い駐車場で雪遊びをしている自分だつた。喜び喜びの世界でした。こんな世界があるのだろう

いつも仏壇に向かつて祈りをしている母の後姿を見下してきた私は、助けてと母に寄り添うと、跳ね返されると思いきや温かく受け入れてくれた。

これで、250年後の私をやつと迎え入れることができる。暗い夜に寒さをしのぎ、うずくまる自分、時にはゴミ置き場に行くことも。それでも私の目の奥には、一点として留め置いている信があり、その信を失うことなく、アルバートの波動を感じ、出会う。そして、アルバートの目の奥

に、タイケトメキチを確認すると、ふるさとのメロディーが聞こえてくると狂わんばかりの喜びと雄叫びをあげていました。

107

250年後の未来の自分は、ペパール、エルランチー光教会の牧師として沢山の学びの友を待っています。

この時私は男性です。

私は、アルバートに出会います。アルバートの目の中に田池留吉の目を見ます。

天変地異は喜び……と来世の自分に伝えたい。
過ぎ世の自分、今世の自分、いくつかの来世、
250年後の自分がともに歩いていく。
田池留吉と出会えた今世の自分が動員していく。
肉もつてこの学びをしていく喜びがあふれて
きました。

これまでの苦しい現象は、すべて喜びだつたんですね！」

心の底からその思いが吹き上がつてきました。
今世の自分、過去世の自分たちが総動員で叫んで
いる感じでした。わたしのおおきな分岐点に
なりました。

苦しい現象、天変地異を受け入れられず、「く
そくそくそ！」とやつてきたけれど、やつとさ
かさまを生きてきたんだなと思いました。

10月志摩セミナーの1日目、波動の勉強で、「こ

108

突きあがってきます。瞬時にエネルギーが自分の中から突きあがってきます。表現するのが不可能なエネルギーが自分の中から湧き出てきます。

ただただ広がる、こんなものじゃない、もつと広がっていく。すごい、嬉しい。

私は今肉の生活が忙しいです。仕事も家庭も充実して楽しく日々を過ごしています。それがこの学びをする上でコンプレックスでもあります。

この今までいいのか。

肉に流されていないのか。

ただ250年後に思いを瞬時に向けるとそんなちっぽけな悩

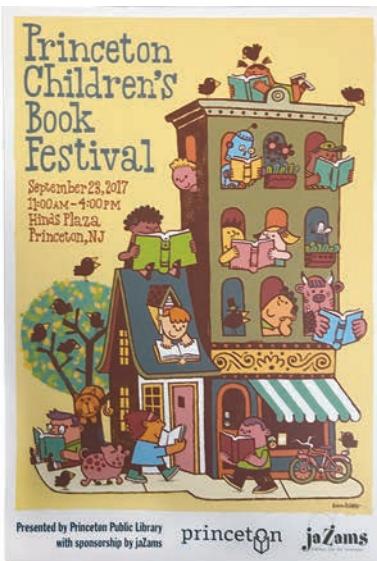


フォートリー砦跡の鹿

みが吹つ飛ぶ感覚です。肉の喜び、幸せと、意識の世界、本当に全くもつて次元が違うものだということが伝わってきます。まだまだこんなものではない、どこまで続くのかと思うほどの喜びのエネルギーが自分の中に溢れ出てきます。250年後までの道信じて歩んでいきます。

緊急に原稿を募集する、という項目を見たとき、これは私の為だと思いました。

というのも、その同じ日、3日に、NYに又帰つてきました。この学びに出会う前から、どうしても、NYという思いがずっとあ



プリンストン
子どもの本の
フェスティバル



りました。そして、私は、肉を運び、飛行機の中で、この学びを紹介されたのです。

250年後は、私にとつて、250年後ではなく、今、今世だつたのです。強い強い思いに突き動かされて、不可能とも思える肉の現実が、変わつてゆきました。N Jにずっと住み、何と心地よかつた事か、来世は、今世であり、今世は、来世でした。

ここにいるとき、肉を忘れて、意識のままで生きられる感じがあります。田池留吉に出会えた、今世、かつてない人生です。どこを向いて良いのか分からなかつた私が、心を向ける先を教えていただいた。肉ではない意識である事を、はつきりと伝授された。

どれだけ、どれだけ、私の心が、軽くなつた事でしよう。どこまでいつても、いつまでたつても、心が納得出来なかつた、この私が、田池

留吉を理解するのに、時間はかかりませんでした。一瞬のうちに、私は、この人だ、と感じました。もちろん、その後、長い学びの過程は続くのですが……。

同じ出会いが、250年後にもあると感じます。アルバートの目を見て、一瞬のうちに全てを思い出します。今世、この日本で、学んだ事、そして、次元を共に超えていくこと。

宇宙が待つてゐるからです。愛に帰る事を、待つてゐるからです。真つ暗闇の全てが、待たれてゐるんです。私の真つ暗闇の宇宙も、世界の真つ暗闇の宇宙も、全てが、断崖絶壁だんかいぜっぺきの淵に立つてゐる。それが、250年後。もう引く後なし、というところで、私はアルバートに出会います。

意識を信じて、この心を信じて、その羅針盤が、心の中にある事を信じて、私は手探りで、しかし、必ず出会います。それが、私が描いてきた意識

の流れです。待つてゐる、待たれてゐる、ああ、宇宙が、愛に満たされていく……何もいらない、この心だけで。

喜びが、爆発します。そして、全ての悲しみ、過去、救われなかつた思いの数々が、一瞬のうちに愛に変わつてゆきます。この宇宙は、愛に満たされていたからです。その宇宙に帰つてゆくだけです。アルバート、愛の中枢ちゅううすう、ああ、本当に本当に長い旅でした。しかし、今はそれもあつという間の出来事の様に感じられます。次元移行の後も又続いてゆく、意識の変革を感じるからです。宇宙船が、グーグーと、近寄つてきて、又、旅立つていくように……。

嬉しいです。本当に、ありがとう、間違つて、間違つてきましたけれど、この喜びは予想以上です。本当に、ありがとう。お母さん、ありがとう。地球よ、ありがとう。私達は、愛。愛の宇宙に帰つてゆく意識でした。



エッジウォーターのカナダ雁

東部や中西部は白人が主でした。南部にはまだ白人至上主義の人たちが多くいました。彼らは黒人だけでなくすべての有色人種を嫌っていました。西部に移ると、東部では考えられなかった白人と黒人のカップルを見かけるようになりました。驚きました。特にカリフォルニアはアジア系の民族も多く、人種のるつぼのようでした。

東部はすべてに保守的で仕事上の取引でも新しい取引には相当時間がかかりました。西部ではすべてが早く、新しい取引を始めるのも早いが、無くなるのも早いという感じでした。

アメリカは出生地主義でシカゴで生まれた次女は米国籍と日本国籍を有することとなりました。

片や、違法滞在で捕まらないよう住居を転々として暮らす人たちもいました。ただ幸いなことにその人たちの子供はアメリカの学校に通っていました。アメリカの懐の広さだと思いました。



牧村市太郎



かつて私は勤務先より、アメリカに転勤になり、シカゴで6年、ロスで5年勤務し、ニュージャージーにも10か月滞在しました。

アメリカ勤務では、業績のプレッシャーはありましたが、日本勤務で感じたような人間関係の煩わしさは全くありませんでした。皆と仲良しくして、助けあうというようなところはありません。その代わり、

自分の責任を果たしていれば何も言われませんが、失敗の責任は自分で負わねばなりません。

アメリカ生活では、何をしようがどんな服装でいようが、誰も何も言いません。全く自由です。多民族、多宗教の国ですから、自分たちと違う人がいて当たり前で、人と違うということを気にしなくていいのです。

ただ人種での傾向はありました。4歳と1歳半の子供を早期教育の保育園に入れましたが、ほとんどの子供が日本人かユダヤ人でした。日本人とユダヤ人は、子供の教育に熱心な人種なんだと思いました。又、どんな小さな田舎町に行っても中国人の経営する中華料理店はありました。中国人の^{たくま}逞しさを感じました。



おわりに

二五〇年後が待ち遠しいです。今が二五〇年後、二五〇年後は今、意識の世界はそなんですけれど、けれど、やはり地球上の肉の時間を経て、互いに肉という形を用意して、そしてそこから発信していく喜びと幸せを味わい尽くしていくというが意識の流れの計画の一端です。

様変わりに変わっている地球という星にありがとうの思いを込めて、そして私達はさらなる世界へ旅立つていきます。

苦しい転生てんしようもすべてにありがとうの思いを伝えて、そして私達が目指す先、それはさらなる愛の世界です。限りなく限りなく広がっていく喜びと温もりの中へ、ともに行こうと いう合図で一斉に飛び立つります。

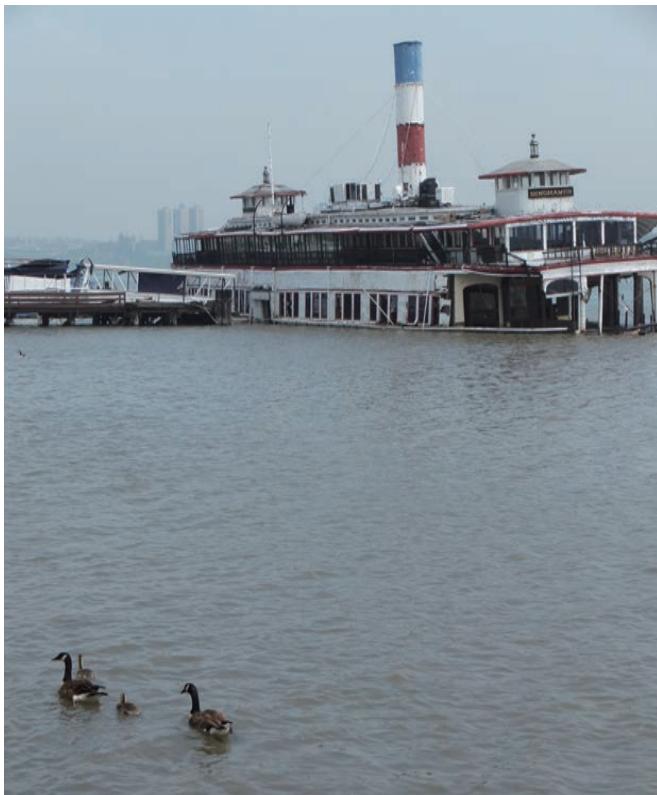
ただただただ嬉しいです。三次元最終のお勉強をしつかりと遂行すいこうしていくために、こうして、今、肉を持つて学ばせていただいている私達です。今世をありがとう、本当にありがとう、肉に塗まみれてきた愚かな自分にただただただただその思いを伝え続けていくこ



れからの時間です。

どんなに形の世界が崩れ去つていっても、たったひとつの世界に私達は生きていることを、心にしつかりとはつきりと感じていく学びをしていきましょう。

（塩川香世）



2007年までハドソン川でレストランとして営業していたビンガムトン号。その後、安全面から営業停止となり2012年、ニューヨークを記録的なハリケーンが襲った際、ハドソン川の氾濫により完全に姿を消すに至りました。



マンハッタン、切尔西マーケットを歩く。

250年後 In 250 years

初版発行 2019年12月8日

編 集 U T A ブック編集部
発 行 一般社団法人 U T A ブック
TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440
印刷・製本 モリモト印刷株式会社

